

令和元年度 横浜市  
「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト  
表彰式・事例発表会 次第

日時：令和元年 12 月 24 日(火) 14：30～  
会場：関内ホール

## 次 第

### 1 表彰式

- (1) 表彰  
表彰状授与 (地域密着型通所介護：13 事業所)  
((看護) 小規模多機能型居宅介護：6 事業所)  
認証証授与 (地域密着型通所介護：2 事業所)  
((看護) 小規模多機能型居宅介護：6 事業所)
- (2) あいさつ  
横浜市健康福祉局長 田中 博章
- (3) 記念撮影

### 2 事例発表会

- (1) 生活維持向上倶楽部「匠」  
管理者 西田 大輔氏
- (2) Reha Style アン フルール  
アンナペレンナ株式会社 代表取締役 近藤 愛子氏
- (3) デイサービス プレゼンス式番館  
株式会社 PRESENCE 代表取締役 三戸 究允氏
- (4) 小規模多機能型プラチナ倶楽部  
管理者 馬場 雅晴氏
- (5) 小規模多機能型居宅介護事業所 オリーブ  
管理者 吉田 香子氏
- (6) ウイル戸塚ステーション  
シニアウイル株式会社 副社長 統括施設長 坂井 奈美江 氏  
管理者 内田 早苗 氏

#### 配布資料

- |                  |       |
|------------------|-------|
| ① 令和元年度認証事業所一覧   | (資料1) |
| ② 本プロジェクト パンフレット | (資料2) |
| ③ 令和元年度表彰事業所 事例集 | (資料3) |



※認証事業所一覧のうち、《表彰》と記載している事業所が表彰事業所です。

※本プロジェクト参加事業所について、エントリーシートによる書類審査及び実地確認を行い、認証及び表彰事業所を決定しました。

※認証事業所のうち、書類審査において高得点であり、効果的な自立支援を実践している事業所を表彰します。

※昨年度（2018年度）から表彰制度を実施しています。対象サービスは次のとおりです。

【2018年度】地域密着型通所介護

【2019年度】地域密着型通所介護、小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護

(1) 地域密着型通所介護

【2年連続表彰】

表彰：8事業所

No.	事業所名	法人名	所在区
1 《表彰》	リカバリータイムズ駒岡	株式会社リカバリータイムズ	鶴見区
	ご利用者の社会とのつながりを大切にしています。デイ利用以前に地域活動に参加していた場合はそのコミュニティへの復帰を目標に据えることも多く、復帰実績も多数あります。身体機能の回復により活動範囲を拡大していけそうなご利用者には、地域ケアプラザの生活支援コーディネーターと連携し、地域活動（体操教室や昼食会など）への参加を促しています。本年10月からは、総合事業の通所型サービスB「グッドタイムズ」の運営も開始し、継続した関わりにより支援を行っています。		
2 《表彰》	リカバリータイムズモア	株式会社リカバリータイムズ	鶴見区
	脳卒中に特化したリハビリ型のデイサービスです。歩行が難しく外出の機会が減ってしまった方でも、運動する習慣を創り、自分で動けるという意識・自信を持てること、社会とつながるきっかけ作りを理学療法士を中心としたチームでサポートしています。ご本人の目標に応じて実際に屋外での活動を取り入れることで、自分自身でも課題を認識し、意欲的に取り組めるよう支援しています。		
3 《表彰》 ☆	デイサービス プレゼンス武番館	株式会社 PRESENCE	港南区
	自宅での生活動作改善を意識し、昼食の準備や簡単な事業所の内装改修など利用者個々の得意分野を活かした活動を行っており、事業所内は笑顔であふれています。44歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断された方がおり、ご家族も戸惑っていた中、デイの利用を通して役割を得たことで、ご自宅での生活も安定した事例があります。		
4 《表彰》	リハビリデイサービス プラチナ倶楽部	株式会社三文サービス	港南区
	リハビリの効果を最大限に発揮するため、継続して来ていただけるようカフェをイメージした居心地の良い空間づくりや、木製のぬくもりある器具を取り入れ、利用者のペースに合わせたプログラムを実践しています。脳梗塞により軽度の麻痺があり、歩行不安が強く、スタッフに自ら助けを求めることが多かった方に、ご本人の意思を尊重しながら少しずつリハビリを行った結果、現在では、自ら意欲的に取り組まれ、「銀座を歩きたい」という新たな目標をもって取り組まれています。		
5 《表彰》	コナトス金沢文庫	株式会社オルタナ	金沢区
	利用者の日常生活動作を意識したプログラムを理学療法士が作成し、個々に合った機能訓練を実践しています。いわゆるリハビリ特化型のデイサービスですが、運動機能の回復のみならず、ご利用者の生活全体を見通し、ご利用者の自尊心や意欲に寄り添うことで在宅生活の継続や社会参加につながるよう支援しています。押しつけではなく、ご本人の意欲を引き出せるよう対話を心がけています。		

6 《表彰》 ☆	<b>Reha Style アン フルール</b>	アンナペレナ株式会社	緑区
	作業療法士・理学療法士が作成したプログラムにより、生活全般の質の向上に取り組んでいます。機能回復から維持さらには加齢による機能低下を起こさないという、向上できるお身体・お気持ちを作り、そこから社会参加していく流れを作れるようサポートしています。リハビリテーション専門職を特別ではなく「リハビリテーションに詳しい普通の人」として身近に感じていただけることが地域密着型という特色にかなうものではないかと考え、そのようなサービスを作りたいと邁進しています。		
7 《表彰》	<b>デイサービス絆 home 横浜青葉</b>	株式会社ネクストバリュー	青葉区
	認知症などで意欲が低下している方でもまずは「心と心のふれあい」から生活歴を探り、その方の役割を見つけていきます。役割が見つかるモチベーションが上がり、生きる活力を感じることが出来ます。役割を果たし、「ありがとう」という言葉を聞いたとき、最高の笑顔と出会えます。地域交流を積極的に行うことで、ご利用者の社会参加の機会を広げ、人と人との絆を深めることにも力を入れています。		
8 《表彰》	<b>生活維持向上倶楽部「扉」</b>	株式会社NGU	泉区
	利用者の自主性を最大限に尊重しつつ、職員の介護技術により能力を引き出す機能訓練を実施することで、改善へとつなげています。地域で開催されているイベントに参加することで、多くの方々と関わる機会を持ち、自分自身が何が出来るかを考える機会を持つことで、「役割」を認識できます。地域の中での役割を持つことで、1分1秒でも長くご自宅での生活を維持していただけるようにサポートしており、改善してサービス利用を卒業される等の多くの改善事例があります。		

### 【新規エントリー】

**表彰：5事業所**

**認証のみ：2事業所**

※昨年度の表彰事業所以外の事業所は、「新規エントリー」の区分としています。

No.	事業所名	法人名	所在区
1 《表彰》	<b>リカバリータイムズ獅子ヶ谷</b>	株式会社リカバリータイムズ	鶴見区
	どんな状態になっても「自分らしく生きていく」をチームでサポートし、いかにご本人の潜在的ニーズを顕在的にしていくかにこだわってサービス提供しています。理学療法士によるアセスメントの中で困りごとなどを丁寧に聴くことを意識し、利用者一人ひとりの目標を明確にした上で、個別の運動プログラムを作成することで、意欲的に参加でき、状態の改善につながっています。		
2 《表彰》	<b>デイサービス プレゼンス</b>	株式会社 P R E S E N C E	港南区
	自宅での日常生活動作を意識し、日常生活に制限が出ていることを解消するための個別の機能訓練を行うことでデイサービスを卒業するなどの改善事例があります。ご利用者とのコミュニケーションを意識的に行い、会話の中から根拠に基づいてご本人の認知機能の状態を把握することで、日々ご利用者の状態を把握し、サービス提供に活かしています。		
3 《表彰》	<b>デイサービス れんじゅ</b>	株式会社 s e e d	緑区
	区役所、地域包括支援センターやケアマネジャーなどとチームでご利用者に関わっています。認知症などで自宅に引きこもりがちな方でもまずはデイに来ていただくことから始め、デイでの友人や楽しみができたことで、ご自宅でも穏やかに生活が送れるようになり、表情も明るくなるなどの改善事例があります。家庭的な事業所内は笑顔であふれ、明るい笑い声で満たされています。		
4 《表彰》	<b>宗教法人 善了寺 還る家ともに</b>	宗教法人善了寺	戸塚区
	お寺に併設されたデイサービスです。認知症があり決まったプログラムを行うことが難しい方でも生活の延長線上でできることを行ってもらうことで、役割を持ち、生き生きと生活を送って頂けるよう支援しています。地域との交流にも積極的に取り組み、デイに多くの人が集い、交流する場となる中で、新たな人間関係が生まれるように心がけています。		
5 《表彰》 ☆	<b>生活維持向上倶楽部「匠」</b>	株式会社NGU	泉区
	地域のボランティアが不足している中で地域のNPO法人と連携して公園内の遊具清掃や美化活動、花壇の整備などの社会貢献活動にご利用者と一緒に参加しています。遊具清掃時には保育園児から感謝され、ご利用者様のやりがいにもなっています。常勤の理学療法士を配置し、ご利用者のアセスメントや生活動作訓練を通じて生活の営みに関わるサポートを実践しています。		

6	<b>デイサービス輝きライフ 保土ヶ谷</b>	株式会社ルフト・メディカルケア	保土ヶ谷区
	自宅に帰った時に生活にどう活かせるかを大切に、楽しんで取り組めるレクリエーションを充実しています。近隣の保育園とも交流を持っています。園児たちと踊りを踊ったり、ゲームや作品作りを一緒に行うことで表情が豊かになり、笑顔や言葉が増えてきた事例もあります。		
7	<b>デイサービス輝きライフ横浜旭</b>	株式会社ルフト・メディカルケア	旭区
	毎日決まった体操を行うのではなく、その日のご利用者の状態にあった機能訓練を考えて実施しています。自宅から外出することに拒否のあった方が、デイサービスを利用することで自信につながり、自ら行いたい内容を主張できるほどやる気や活気にあふれ、生活にメリハリがつくようになった事例もあります。		

## (2) 小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護

表彰：6事業所 認証のみ：6事業所

No.	事業所名	法人名	所在区
1 《表彰》 ☆	<b>小規模多機能型プラチナ倶楽部</b>	株式会社三文サービス	港南区
	職員にあん摩マッサージ指圧師がおり、機能訓練に力を入れています。小規模多機能の特性を活かして、ご利用者一人ひとりの24時間シートを作り、24時間を通じてどんな時に不穏になるか、不穏になる時間、対応の仕方はどうだったか、対応をどう変えてみたか、変えてみてどのような反応をしてどのような課題が残ったかをチームで検証しています。これにより、生活の改善につながっています。		
2 《表彰》	<b>Harmony House</b>	医療法人匠光会	都筑区
	看護師が常勤で配置されているため、医療ニーズが高い方でも受け入れが可能です。開所して3年ですが、20名を超える方の看取りを行っています。ご家族への支援として、ご家族も一緒に宿泊できる体制を整えています。法人内で訪問看護ステーションや在宅診療も行っているため、チームで支援しています。事業所内は明るい雰囲気、季節ごとの様々なイベントを開催し、地域との交流も図っています。		
3 《表彰》	<b>ウイル汲沢ステーション</b>	シニアウイル株式会社	戸塚区
	「住み慣れた自宅で最後まで暮らしたい」というご本人の希望を最大限叶えるため、家族と協力しながら支援を行っています。訪問回数は月に600～800回程度あり、1日に複数回の訪問を行います。その都度スタッフがアセスメントを行い、必要に応じてすぐにケアプランに反映させています。ご本人の馴染みの病院、スーパー、美容院、自治会等に行くなど、これまでの生活を継続できるようサポートを行っています。		
4 《表彰》	<b>ウイル原宿ステーション</b>	シニアウイル株式会社	戸塚区
	ご利用者一人一人のニーズに沿った丁寧なサービスの提供を実践しています。あまり社交的でないご利用者が麻雀がお好きであることがわかり、自治会館で行われる麻雀教室へ送迎を行うことで、地域の中で笑顔を見せるようになった事例もあります。また、在宅支援には訪問が不可欠と考えており、1日3回の訪問をプランに位置付け、一月に約600回の訪問を行い、在宅支援に力を入れています。		
5 《表彰》 ☆	<b>ウイル戸塚ステーション</b> 【※看護小規模多機能】	シニアウイル株式会社	戸塚区
	理学療法士がいるため、事業所でリハビリを行うことで機能回復した事例がある一方で、看護小規模多機能のため、看取りを行うこともあります。看取り時には、ご本人の希望を最大限尊重するため、可能な限りご本人から直接要望（最期に何をしたいなど）をヒアリングしたり、意思表示が難しい場合には本人だったらどうしたいと思うかということをご家族と一緒に考え、主治医とも連携しながら事業所、家族、医療機関など、チームで支援しています。		
6 《表彰》 ☆	<b>小規模多機能型居宅介護事業所 オリーブ</b>	株式会社アイシマ	瀬谷区
	ご利用者自身が地域の講習会の講師になるなど、地域との関係性を持ち続けることができるよう、支援を行っています。防災訓練や職業体験などの機会をとらえて近隣住民に事業所のことを知ってもらうことで、その後も気軽に遊びに来たり、ご利用者の紹介につながっています。また、「にやりほっと」の取り組みを始め、職員が「うれしかったこと」「あたたかな気持ちになったこと」などを紙に書き職員間で共有し、「ご利用者との会話が以前より心に残るようになった」「積極的に関わりたい」など職員のやりがいにつながっています。		

7	<b>いきいき生活館・ねざし</b>	株式会社遠藤接骨院ヘルパーステーション	中区
季節ごとに装飾を工夫したり、季節の行事をオープンに行い、近隣住民との交流を図っています。認知症や障害があっても自宅での生活が継続できるよう、主治医との連携を密にし、ご利用者の状況に応じてプランに反映させるなど、きめ細やかな対応を行っています。			
8	<b>真珠のかがやき</b>	社会福祉法人横浜太陽会	南区
認知症や障害のある方でも、ご利用者の状態に合わせたケアを行うことで、自宅での生活を継続できるよう支援しています。子どもたちがイベントに参加してくれた時には普段落ち着きがなく不安そうな表情のご利用者が笑顔で子どもたちに声を掛ける姿も見られ、その後表情もよくなったという事例もあります。			
9	<b>小規模多機能フェローズしのはら</b>	社会福祉法人フェローズ	港北区
自然なお声掛けやご利用者を尊重した対応で交流が生まれ温もりあるケアが提供できています。リハビリに力を入れており、車いす生活だった方が機能訓練や体操により杖歩行が可能になり、自宅で生活する時間が増え、本人の希望でもあった「自宅の庭で畑仕事をしたい」という目標を達成した事例もあります。			
10	<b>小規模多機能施設 のぞみ</b>	株式会社ゆい	港北区
「○○を買うならこの店」や「月に1度は家族で○○を食べに行っていた」などこれまでのご利用者の生活習慣をアセスメントに反映することで、自宅でこれまで過ごされていたことをできるだけ継続することができるよう支援しています。			
11	<b>小規模多機能施設 めぐみ</b>	株式会社ゆい	港北区
「その人らしく生きる」を大切に、ご家族とも協力関係を築きながら、一日複数回の訪問を行い、自宅での生活を継続できるよう支援を行っています。独居で寝たきりの方でも往診医と協力しながらきめ細かな対応をしてみた結果、食事形態もムース食からミキサー食になるなど状態が改善した事例もあります。			
12	<b>小規模多機能施設 ゆい青葉</b>	株式会社ゆい	青葉区
疾病・障がい・育まれた環境を個性と理解し、どうすれば自分らしく生きていくことができるかを常に模索しています。看取りのケースでは、施設入所で在宅生活は難しいと言われた方の「一度は自宅に帰りたい」との想いを叶え、小規模多機能サービスとして24時間在宅生活を支えることで、最期にはご本人から「家に帰りたい」ではなく「家には帰れたから」という言葉をいただき、ご家族から感謝の手紙をいただいています。			

《 認証事業所ステッカー 》



↑表彰事業所には  
ステッカー（ゴールド）と表彰状を授与



↑認証のみの事業所には  
ステッカー（シルバー）と認証証を授与

# 横浜発 『みんなにやさしい介護のフロンティアを目指す』 プロジェクト 2019

横浜市は、利用者にも事業所にも介護従事者にも、『みんなにやさしい介護』で、明るい未来をつくりたいと考えています。

横浜市の地域密着型サービス事業所が一丸となって、このプロジェクトを推進することで、横浜から介護の新ステージを発信することができると信じています。ぜひ、このプロジェクトに参加してください！

そして一緒に明るい未来をつくっていきましょう！！

## 《本年度の対象サービス》

- ☆地域密着型通所介護（※2018年度から実施）
- ☆小規模多機能型居宅介護
- ☆看護小規模多機能型居宅介護

## プロジェクトで目指すものは？

ズバリ『みんなにやさしい介護』です。

### 『みんなにやさしい介護』とは・・・

#### 利用者に「やさしい」

できる限り、自分らしい（自分が望む）、生活を営むことができます。

#### 家族等の介護者に「やさしい」

要介護者の状態を維持・改善することで介護の負担を軽減します。

#### 介護従事者（スタッフ）に「やさしい」

ケアにより状態の改善を実感でき、働き甲斐、充実感が得られます。

#### 事業所に「やさしい」

利用者・家族・他の事業所から信頼されることで利用者希望が増えます。また、介護従事者がやりがいを感じる事業所となることで、介護従事者の定着や新たな人材確保（就職希望）につながります。

このように『みんなにやさしい介護』の好循環を作り出せたら、すばらしいと思いませんか？

## 『みんなにやさしい介護』にするためには、どうすればよいのか？

市内には、様々なタイプの事業所がありますが、各事業所において、自立支援にしっかりと取り組むことが重要であると考えています。

では、自立支援に取り組むとは具体的にどうすればよいのか？

横浜市では、次の2つの視点で自立支援の“ケア”を実践している事業所（または目指している事業所）を応援していきたいと思えます。

### ● 「能力を引き出すケア」

当事者の「自立」を目指し、必要なものを用意し環境を整え、現有能力・潜在能力を適切に引き出す関わりをすることで、生活の営みを支援するケア。

### ● 「自らの意思で選択することを支援し、個人のニーズにあったケア」

当事者の「自立」を目指し、自分の意思で選択し行動や生活ができるよう、画一的なプログラムを行うのではなく、個人のニーズ・状態にあったプログラムを提供するケア。

## ここで、「介護保険法」の“目的”を再確認してみましょう！

介護保険法

（目的）

第一条 この法律は、加齢に伴って生ずる心身の変化に起因する疾病等により要介護状態となり、入浴、排せつ、食事等の介護、機能訓練並びに看護及び療養上の管理その他の医療を要する者等について、これらの者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ**自立した日常生活を営むことができるよう**、必要な保健医療サービス及び福祉サービスに係る給付を行うため、国民の共同連帯の理念に基づき介護保険制度を設け、その行う保険給付等に関して必要な事項を定め、もって国民の保健医療の向上及び福祉の増進を図ることを目的とする。

## では、具体的に何をするのか？

### ① エントリーシートの提出

事業所のみなさまには、このプロジェクトに参加する意思表示として、まずは「エントリーシート」を作成・提出していただきます。

このエントリーシートを作成することで、これまでの貴事業所での自立支援の取組を振り返っていただくことができます。

このプロジェクトの活動は、「自事業所は、真の自立支援を実践できているか？」を、振り返り・見直すことから始まります。

### ②プロジェクト推進事業所として認証

エントリーシートの内容から、自立支援に効果的なプログラムを実施しており、本プロジェクトに参加して、さらなる自立支援の推進に取り組む意欲がある事業所を選び、プロジェクトの推進事業所として認証します。

★認証事業所には、認証ステッカー（シルバー）を配布します。

★認証事業所は、市ホームページ等で、利用者やケアマネジャーへ周知していきます。

### ③さらに優れた取組を行っている事業所を表彰

認証事業所の中から、さらに優れた自立支援の取組を行っている事業所を表彰します。エントリーシートに記載いただいた具体的な取組内容から、“地道だけれども着実に実績を積んでいる取組”や、“これまでの介護の常識が変わるようなユニークな取組”など、“多彩な取組”を表彰していきたいと考えています。

★表彰事業所には、認証ステッカー（ゴールド）を配布します。

★表彰事業所には事例発表をしていただき、市内の他事業所にも、その取組を広めていきます。

★表彰事業所についても、市ホームページ等で、利用者やケアマネジャーへ周知していきます。

## 『みんなにやさしい介護のプロ』の3つの条件

### ●「知識」があること

介護の世界は日々進化しています。また、一人ひとり身体状況や病態が異なるため、適切な介護を行うためには「知識」が必要であり、学び続けることが重要です。

### ●「技術」があること

効果的な自立支援・適切な介護を実践するためには根拠ある介護技術が必要で、より高い介護技術を身に着けるため学び続けることが大切です。

### ●「思い」があること

利用者一人ひとりとしっかり向き合い、必要な支援を真剣に考え、実施する姿勢が必要です。よりよい支援を継続していく、また、新しい情報・知識・技術を学び続けるためには、職業倫理を理解し、そこに向かうための原動力と「この仕事を始めた時の思い」を継続して持ち続けることが必要です。

## 横浜市から事業所の皆さまへ伝えたいこと

『みんなにやさしい介護』を実現するため、市内の全事業所において「能力を引き出すケア」・「自らの意思で選択することを支援し、個人のニーズにあったケア」を実践していただきたいと考えています。

事業所の皆さまには、既に自立支援に取り組まれていると思います。しかし、その取組が、本当の意味での自立支援につながっているか、これまでの介護の常識にとらわれずに、改めて振り返ってみてください。今一度、サービス提供のあり方やプログラムの内容、利用者への関わり、介護の「知識」と「技術」、といったことに留意して見直してみてください。

また、自立支援に取り組むためには、スタッフ全員がしっかりと考え実行できるようになること、そして、事業所としてスタッフを支える環境（理念・教育等）を整えることが求められます。

市内には様々なタイプの事業所があり、それぞれ様々な方法で自立支援に取り組まれています。自立支援の手法はひとつではありません。利用者一人ひとりの「自立支援」に取り組むことは容易なことではありませんが、このプロジェクトを通じて、効果的な自立支援の取組を共有することで、横浜市の地域密着型サービス事業所の皆様と一緒に「みんなにやさしい介護」の好循環を作っていきたいと思います。



令和元年度 横浜市

「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト

## 表彰事業所 事例集

令和元年12月24日

関内ホール

### 目次

#### 【表彰事業所(事例発表)】

##### ○地域密着型通所介護(新規エントリー)

生活維持向上倶楽部「匠」	3ページ
--------------	------

##### ○地域密着型通所介護(2年連続表彰)

Reha Style アンフルール	7ページ
デイサービス プレゼンス式番館	12ページ

##### ○(看護)小規模多機能型居宅介護(新規エントリー)

小規模多機能型プラチナ倶楽部	15ページ
小規模多機能型居宅介護事業所 オリーブ	18ページ
ウイル戸塚ステーション	27ページ

## 目次

### 【表彰事業所(2年連続表彰)】

#### ○地域密着型通所介護

リカバリータイムズ駒岡	31ページ
リカバリータイムズモア	32ページ
リハビリデイサービス プラチナ倶楽部	33ページ
コナトス金沢文庫	34ページ
デイサービス絆home横浜青葉	35ページ
生活維持向上倶楽部「扉」	37ページ

## 目次

### 【表彰事業所(新規エントリー)】

#### ○地域密着型通所介護

リカバリータイムズ獅子ヶ谷	39ページ
デイサービス プレゼンス	40ページ
デイサービス れんじゅ	41ページ
宗教法人 善了寺 還る家ともに	42ページ

#### ○(看護)小規模多機能型居宅介護

Harmony House	43ページ
ウイル汲沢ステーション	46ページ
ウイル原宿ステーション	47ページ

基本情報

法人名	株式会社 NGU
事業所所在地	泉区中田東 <b>1-3-21</b> 鈴木ビル1階 (踊場駅・徒歩 <b>3</b> 分)
開所日	<b>R1.8.1</b>
定員	<b>10</b> 名
サービス提供日・時間	月～金( <b>12/30～1/3</b> を除く) <b>9:10～16:20</b>
事業所の見学	利用者の見学は可(※突然の見学も問題ありませんが、できましたら事前連絡いただけたらと思います)但し無料体験・送迎はお断りさせていただきます。 他事業所からの見学・体験・研修も歓迎します。 事前にお問い合わせください。(担当:西田 <b>045-410-7717</b> )
特徴	地域のNPO法人と協力して公園整備や一般企業と連携して美化活動や社会貢献、さらにSDGsの一環の循環型活動をメンバーさん中心に実施しています。社会とのつながりになるキッカケを創ることで「役割」「やりがい」「生活意欲の向上」につながる活動を展開中。 また、常勤の理学療法士が <b>ADL</b> 維持向上を生活動作内と必要に応じ個別での関り、さらにパートナー全員で統一した関りを生活内で実践し <b>QOL</b> の向上につながっています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

株式会社NGU生活維持向上倶楽部「匠」

【事例又は独自の取組み等】

◆要介護度1 67歳 男性  
◆59歳で前頭側頭型認知症・65歳でアルツハイマー型認知症(65歳)と診断される。認知症の症状として感情のコントロールがし難くなっている事・反復言語・社会性の低下による言動が強く表れる。いくつものデイサービスを利用されるも不快が募り行きたくないと長続きしない。ご家族自ら、当法人の生活維持向上倶楽部「匠」に相談に来られ利用開始となる。利用開始から一年以上経ち曜日を増やしたいと希望があるが、「匠」には空きがなく当事業所「匠」を開所から利用となる。

～2事業所共通の関り方～

- ・二つの通所を利用している為、混乱が起きないようにパートナーは統一した関りを行う。
- ・感情のコントロールがし難い事がある為、活動を「常同行動」に落とし込み精神的不安の軽減を行う。
- ・「誰かの為に」とschoolを立ち上げた方なので、役割がある取り組みを室内外で取り組める活動を行う。
- ・ご自宅での生活につながる生活動作

～「匠」独自の関り方～

- ・公園管理や美化活動(身体的機能維持・認知症緩和プログラム)
- ・会社経営者だったためPCなどで事務的仕事の依頼
- ・NPO法人のイベントでの作品作り等

利用開始直後は「扉」との記憶の混乱がみられるも、関わりからすぐに落ち着かれるとともに事業所の違いを認識される。また、「匠」の生活内に新たな「役割」の形成があり活動内容の違いも認識される。さまざまな事に興味が生まれ、潜在している力を発揮されるようになる。ご自宅では、「新しいほうに明日行く日だろ?」「今度いつ行っていいの?」等の発言が出たりと生活意欲の向上につながった。さらに、心理面での安定にもつながり感情も穏やかになり笑いの時間が増えている。  
人的環境がもたらした**BPSD**も落ち着き、現在はイキイキと生活を送っています。



利用日以外で1泊での活動や登山などでも関りをさせていただいています!

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 株式会社NGU 生活維持向上倶楽部「匠」



## 【事例又は独自の取組み等】

◆要介護度**3** **46**歳 男性 (現在7歳のお子さんがいらっしゃる。)  
 ◆**42**歳の時に脳梗塞発症。後遺症で左半身麻痺(左空間半側無視)、高次脳機能障害となる。リハビリを継続の為にデイケアに通うも物足りなさを感じる。また、いくつものデイサービス(機能訓練型含む)を見学されるも自身のやりがいにつながるような事業所が見つからないと**CM**より生活に「じりつ」と「自信」がある活動をとの事で当事業所を**10**月から利用となる。

- ・まずは信頼関係を築き、会話の中から本人が興味、やりたいと思えることを取組として提供する。
- ・興味、関心が持てる取り組みの「キッカケ」を創造し、成功体験から精神的な安定ができる様に関わる。
- ・ご自分でできる事が増える事で生活の自信につなげる。
- ・医師から現在の歩き方では非麻痺側側に負担がかかり過ぎて将来的に歩けなくなる可能性が高いと言われている為、誤用症候群の予防を生活動作内で徹底。
- ・過用症候群、特に「連合反応」が軽減し麻痺側側の筋緊張の軽減、拘縮予防を座位姿勢から徹底し、生活に必要な3つの基本動作へのアプローチを理学療法士だけでなく、介護士も含めパートナー全員で徹底し統一した関りを行う。

・歩行状況で努力性の亢進が著明な事と杖の長さが合っていない様子がうかがえたため、理学療法士を中心とした室内外の歩行動作の見直しを、杖の調整と座位姿勢からパートナー全員で関わり筋緊張の緩和から始まり現在では歩行状況の改善まで出来ました。また、立ち上がり時に立ち上がりの根拠を伝達し努力性の軽減などから「生活のしやすさ」を生活の中で感じていただいたところ、活動に対して「やりたいことがわからないからこれから探して行きたい」や「今度はこれをやってみたい」という「自発的」発言、行動が出ています。

まだ、利用開始から2ヵ月と経たないなかで「意欲向上」が明確に出てきたので、「じりつ」した生活に向かうようにキッカケを提供できるように考えていきます。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 株式会社NGU 生活維持向上倶楽部「匠」



## 主な取り組み内容

□じりつ支援 □自己実現 □○○貢献 □地域貢献・交流 □○○型活動の5つの活動！

### □地域貢献・交流

地域交流にとどまらない活動を地域(自治会)の一員として新たな役割を構築。NPO団体等と協同して公園の管理や様々なイベントを共同で準備開催し、認知症の方の「まだまだできる」を知っていただき、メンバーさんは「自信の回復」・地域の方は「間違った見方の改善」と啓発活動の一環にもなっている。



子供たちが安全に遊べる場所の為に清掃活動。そして。。。ここから、これからの子供たちに残し語り続けたいことに取り組んでいきます！



刃物の「安全な使い方」を私たちが教わりました！



NPOと協力しての美化活動

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

### □じりつ支援 (福祉的・ケア的)

自ら考えての「自律」とキッカケを創造しての「自立」

そして・・・できるから「やってもらう」・できる事を「最大限に活用」ではなく、現在とこの先の「生活の営み」につながる「じりつ」へのアプローチ！



当法人の考え方で「扉」と同じようにサービスを利用している時間だけが「パートナー」ではないと考えています。

営業日以外にもメンバーさん、ご家族と歩まさせていただきます！



法人理念≫ 道はどんなに険しくても笑って過ごそう！

事業所理念≫

常にプロ意識を持ち、共に目の前の「扉」を開き歩む！

**N**ever **G**ive **U**p

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# Reha Style アンフルール



## 基本情報

法人名	アンナペレンナ(株)
事業所所在地	緑区鴨居町2481 第2串田ハイツ1階 (鴨居駅・徒歩17分)
開所日	H25.5.1
定員	10名
サービス提供日 時間	月～金(12/30～1/3、5/5、夏季休業(7月に1日間、8月に2日間)を除く) ①9:15～12:15 ②13:15～16:15
事業所の見学	ご利用希望の方は、空き状況によりご案内させて頂いております。 他事業所からの見学も歓迎します。 事前にお問い合わせください。(担当:近藤 045-482-5385)
特徴	作業療法士・理学療法士が直接訓練により、生活全般の質の向上に取り組んでいます。機能回復した状態を、年を重ねても維持できるよう、向上できるお身体・お気持ちを作り、そこから社会参加していく流れを作れるようサポートしています。リハビリテーション専門職を特別ではなく「リハビリテーションに詳しい人」として身近に感じていただけることが地域密着型という特色にかなうものではないかと考え、そのようなサービスを作りたいと邁進しています。



自信をもって  
明日への一歩を



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 地域におけるリハビリテーション



機能回復→年齢を重ねても維持

住み慣れた場所で生活→つながり

向上できるお身体お気持ちづくり

社会参加



Reha Style

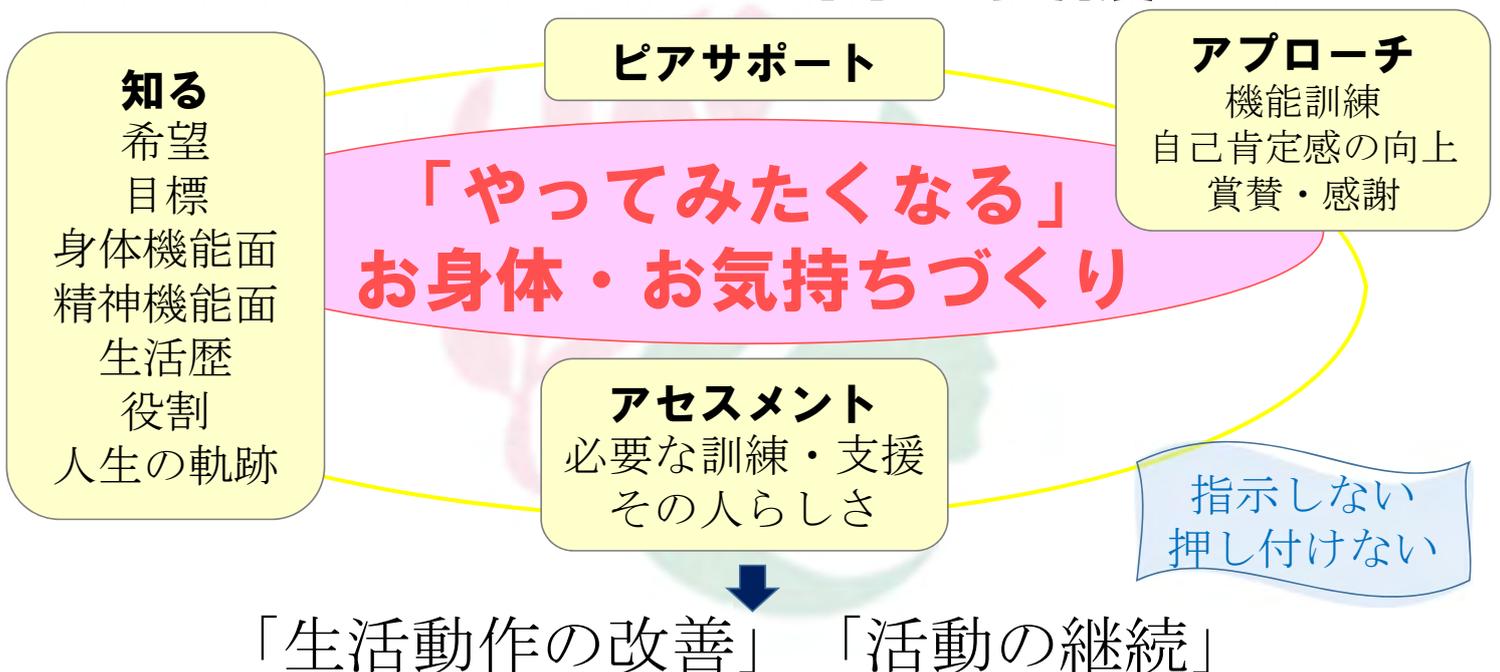
*Annaperenna, inc*

# お互いに支え合い自己実現

- ①OT・PTの動作分析・行動分析・計画・考察・実施  
向上→維持→予防→自立→社会参加
- ②ピアサポートとケアの心理  
ご利用者同士・スタッフが互いに支え合う
- ③スタッフの熱意に対し受け止める・肯定する・  
信頼する・感謝する・修正するをスタッフ間で  
管理

*Annapereenna.inc*

# アンフルールの自立支援



*Annapereenna.inc*



# 自発的な活動 役割の遂行 社会参加

*Annapereenna, inc*

## 母そして妻へ

ケース：出産時脳出血 両側上下肢麻痺  
40代前半 女性 要介護3

生活：平日→両親（実家で両親と下の子と4人暮らし）  
週末→夫（自宅に戻り義両親と6人暮らし）

初期の希望：「もっと動ける体になりたい」

現在の希望：「家族を返してほしい。夫と子供  
と4人で暮らしたい」

*Annapereenna, inc*

# 母・妻としてのアプローチ

## 具体的な目標

子供のお風呂上りに服を着せて、クリームを塗る



身体機能面・精神機能面の改善  
環境の変容・設定



利用毎の確認とフィードバック

*Annapereenna.inc*

# 母・妻としての経過

母として 運動会のお弁当作り  
お風呂上がりの子どもの世話  
クリスマスケーキの検討・試作

妻として 休日のおかずづくり  
子供の将来を話し合う

家族4人で暮らせるようサポートしたい

*Annapereenna.inc*

# 最後に



アンナペレンナ株式会社

チャンネル登録よろしくお願ひしま  
す！

ご清聴ありがとうございました

*Annaperenna.inc*

# デイサービス プレゼンス弐番館



## 基本情報

法人名	株式会社PRESENCE
事業所所在地	港南区丸山台3-30-3 (上永谷駅・徒歩1分)
開所日	H28.10.1
定員	10名
サービス提供日・時間	月～土(12/31～1/3を除く) 9:20～16:30
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:三戸 045-353-7935)
特徴	自宅での生活動作改善を意識し、昼食の準備や簡単な事業所の内装工事など利用者個々の得意分野を活かした活動を行っており、事業所内は笑顔であふれています。44歳で若年性アルツハイマー型認知症と診断された方がおり、ご家族も戸惑っていた中、デイの利用を通して役割を得たことで、ご自宅での生活も安定した事例があります。

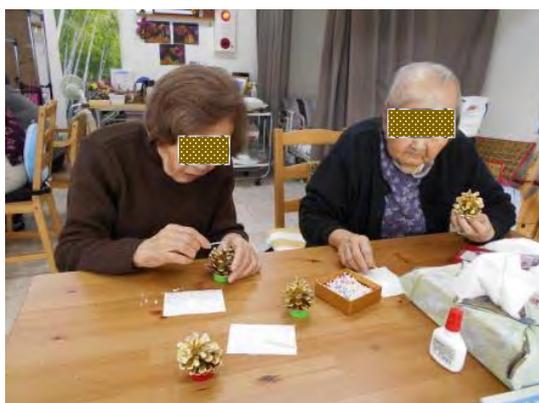


横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

弊社施設(事業所)での取組み状況のご紹介



## 「子供たちへのプレゼント作成」



松ぼっくりを利用した小物作り



小物作り

### 【活動内容】

利用者さんに、木の実やペットボトルの蓋などの身近なものを使って、人形やコマ、アクセサリなどを作ってもらい、施設を訪れた子供たちにプレゼントしています。

### 【効果】

細かな手作業をすることで、利用者さんの手先の訓練、集中力のアップが期待できます。完成品は自分たちで楽しむだけではなく、子供たちにプレゼントし喜んでもらえることで、利用者さんが張合いを感じてくれます。

# 「地域の方からの寄付品の再利用」

## • ペットボトル

リサイクルへ



分別



資源回収

## • ペットボトルキャップ

地域の子供たちにプレゼントする作品として利用



ペットボトルキャップで作ったストラップ



プレゼントを地域の方に配布している。

# デイサービス プレゼンス三番館



## 【事例又は独自の取組み等】

要介護3 44歳 男性

疾患 若年性アルツハイマー型認知症

利用期間 2019年4月～現在

### 利用までの経緯

病気を発症されたことで仕事を退職し家族との生活始まる。病気を発症する前までは社会との関りも多かったが現在は社会との交流も少なくなっている。

### 目標

デイサービスを利用を通し社会参加の機会を作るようチームケアにて対応する。

### 具体的アプローチ

- 事業所内では生活上の動作や地域との交流を中心に活動している。
- 家族に本人(認知症)のかかわり方のアドバイスをを行っている。
- 介護保険外での社会交流への参加(ラン件)

## 結果

症状は現在も緩やかに進行しています。

しかしながら、

進行に合わせて家族、ケアマネジャーと協力して本人の状態に合わせて対応することで、事業所で行っている活動が自宅での役割にもなっており、また、社会活動にも積極的に参加されている。

家族から本人の小さな変化を報告していただき、事業所のサービスに反映したり、家族への助言にも繋げている。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019



ご清聴ありがとうございました

株式会社PRESENCE

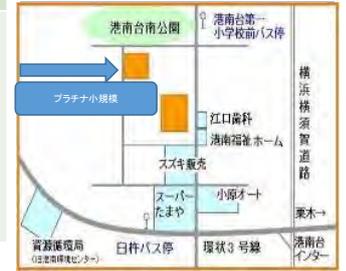
<http://www.presence-care.com/presence.html>

# 小規模多機能型プラチナ倶楽部



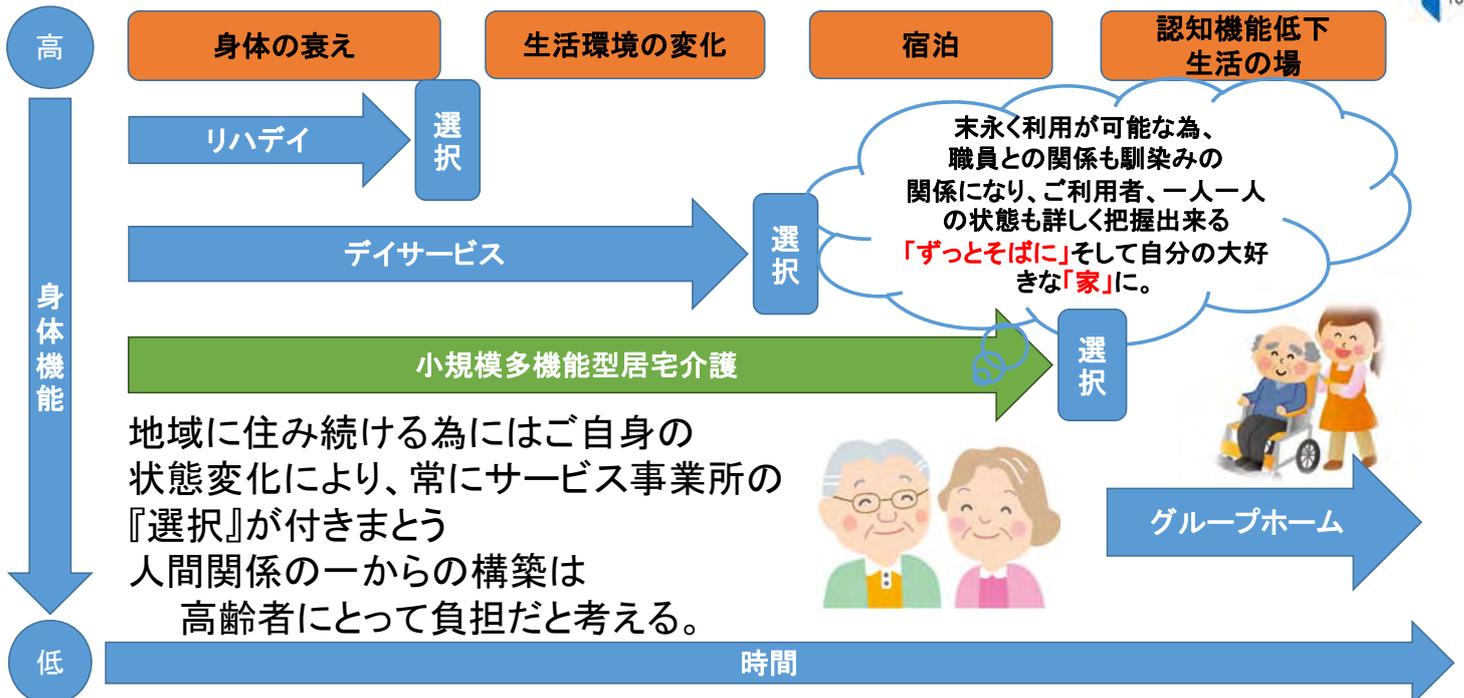
## 基本情報

法人名	株式会社 三文サービス
事業所所在地	横浜市港南区港南台6-9-25 (JR港南台駅、もしくは洋光台駅から市営バス111系統を乗車後、「港南台第一小学校前」のバス停にて下車。徒歩2~3分。)
開所日	H22.6.1
定員	登録:29名 通い:18名 宿泊:9名
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:馬場・鈴木・今井・栗原 045-830-6116)
特徴	職員にあん摩マッサージ指圧師がおり、機能訓練に力を入れています。地域の方が病院等から、自宅に戻る過程の中、介護サービス内における、小規模多機能サービスの特徴をふまえ、ご利用されている方の生活環境、ステージ変化に柔軟に対応できるようにしております。支援のあり方を常に追求して、どのような課題が残ったかチームで検証を行ったりしています。PDCAサイクルを常に実施することで最良の支援を心がけています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 小規模多機能型プラチナ倶楽部



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 小規模多機能型プラチナ倶楽部



## (スタッフと利用者の関係)

スタッフとも仲良く、会話のトーンは気軽で、柔軟に困っていることに、変化に気づけるひとたちがいる。スタッフからは元気になる掛け声があり一人一人との対等な対話を大切に、達成感を共有する。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 小規模多機能型プラチナ倶楽部



## 【事例又は独自の取組み等】

・ 介護度 5 年齢 91 性別 女性

### ●事業所の利用を始めたきっかけ●

認知症がとて強い利用者です。自宅ではネグレストもあり、ほぼ独居状態、食事もちんちんと摂れているかわからなく、体重も落ちている状態でした。通い、泊り、訪問を併用してもらう事で、食事管理、環境整備、運動機能向上の実施、小規模利用スタート。

### ●どんな目標を立て、具体的にどうアプローチしたか●

『**食事管理**』通いの日は来所してから、朝食をしっかりと食べて頂く、お昼は勿論、帰りは夕食後の送迎。

『**環境整備**』夕食後の送迎、訪問で部屋の衣類整理、部屋の片付け寝具を整える等。

『**運動機能向上**』日々上肢、下肢を意識した体操、週1~2回の近隣公園散歩、施設内約17mの廊下を生かした歩行訓練。

●不穏が軽減される泊り、利用時、特に夜間、不穏が強かったので少しでも不安なく過ごして頂きたく、24Hシートにて状態を記入し管理した。不穏時の状態、スタッフの対応、対応後の状態を夜間スタッフにて情報を収集し同じ対応をする事を実践した。

### ●取組の結果●

・日々規則正しく生活して頂くことで、26キロの体重を36キロ台まで増えました、機能訓練、日々の体操により体力もつき、自宅の階段も手すりをしっかりつかまて、ご利用者自身で昇降しています。

・同じ対応をすることにより、不安を少しでも取り除くことが出来、施設では夜間も安心して休まれる時間が増えました。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 小規模多機能型プラチナ倶楽部



私たち**プラチナ倶楽部**は・・・

地域社会の高齢者が**住み慣れた環境**で  
自立できる生活を目指しています。

その為に必要なサービスを検討し、  
一人一人に合った**生活支援**を  
提供してまいります。

ご清聴ありがとうございました！！

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 小規模多機能型居宅介護事業所 オリーブ



## 基本情報

法人名	株式会社 アイシマ
事業所所在地	横浜市瀬谷区三ツ境159番地の10 (相鉄線 三ツ境駅より徒歩15分。相鉄線三ツ境駅より神奈中バス宮沢行、戸塚駅東口行、いずみ野駅行に乘車 住宅入り口下車 徒歩2分)
開所日	H20.8.1
定員	登録:29名 通い:18名 宿泊:9名
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も大歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:吉田香子 045-360-6401)
特徴	防災訓練や職業体験などの機会をとらえて近隣住民に事業所のことを知ってもらうことで、その後も気軽に遊びに来てもらえるように工夫しています。ご利用者自身が地域の講習会の講師になるなど、地域との関係性を持ち続けることができるよう、支援を行っています。また、「にやりほっと」という取り組みを始め、職員が「うれしかったこと」「あたたかな気持ちになったこと」などを紙に書きみんなで共有することで「ご利用者との会話が以前より心に残るようになった」「積極的に関わりたい」など職員のやりがいにつながっています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 小規模多機能型居宅介護事業所 オリーブ



## 【事例又は独自の取組み等】

- ◆平成29年2月「第10回神奈川県特定施設研究大会」ではじめて聞いた「にやりほっと」
- ◆オリーブでも「にやりほっと」の取り組みを実施しよう！



◆今年の2月から「にやりほっと」の取り組みを開始、今までに44週実施

◆利用者様とのかかわりの中で、

「にやり」とした出来事や、「ほっ」としたあたたかなエピソードを、職員間で報告し合い、共有することで、

「以前より時間をかけて話をするようになった」、

「積極的に笑顔を探したり、できることに着目するようになった」と前向きな声が職員から聞こえてくるようになった

◆安全を確保するための取り組みである「ヒヤリハット」同様、笑顔をさがす取り組みである「にやりほっと」も共有することでたくさんの効果があった

使用している写真はご本人の同意をいただいています

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

たくさんの笑顔みつけたよ  
～にやりほっとの効果～

「にやり」とできることをさがすこと

II

キーワードは笑顔

明るい気持ちで業務にあたる **ひとり1日1にやり**を目標

- ◆ 個人で知っている「にやり」な場面を記録し、可視化することで「共有する価値のある情報」にする
- ◆ 利用者様に対する情報の引き出しを増やす

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 「にやり」計画

- ◆ 「にやり」としたエピソードを紙に書いてにやり箱へ
- ◆ 週に1回集計
- ◆ 44週実施、7週目に職員アンケート実施
- ◆ 毎月カンファレンスでみんなの「にやり」を共有
- ◆ 他の職員の「にやり」には批判厳禁
- ◆ この「にやり」を共有できてうれしいという見方



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 「にやりほっと」一部紹介

風邪から回復したAさん、  
「いくら具合が悪くても食欲は落ちないんだよ」  
「Aさんが来る日はたくさんごはんを  
炊いていますよ」周りのみんなも大笑い、  
それでこそAさん！  
95歳で毎食お替りはすごいです

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

以前子供の卒園式の話をしたら、  
卒園式の次の日、Bさんが「おめでとう  
次は入学式だね」と言ってくれた  
うれしい気持ちになった



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 小規模多機能型居宅介護事業所 オリーブ



食事の際、「新鮮な野菜はおいしいね」と

皆さんが喜んでいる様子を見て、

とれたての野菜を提供できる喜びを感じた



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 小規模多機能型居宅介護事業所 オリーブ



おしゃれして行事に参加したCさん、

「昨日の夜は遠足の前の日の子供のように、眠れないほど

今日の行事が楽しみだった」と言われた

行事っていいな、これからも喜ばれる行事を

企画したいと思った



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 実施および結果

### 職員に大きく2つの変化があった

1. コミュニケーションの変化
2. 仕事へのやりがいの変化

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 実施および結果 1.コミュニケーションの変化

- ① 利用者様との会話が以前より心に残るようになった
- ② 「積極的にかかわりたい」、「話題を考えて話かけよう」、「楽しいことをみつけよう」と心がけるようになった
- ③ 利用者様のことをたくさん知ることができ、私たち職員のことも知ってもらえた
- ④ 「良いところ」、「できること」、「好きなこと」などプラス面に着目するようになった

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 実施および結果 2.仕事へのやりがいの変化

- ① 今まで自分ひとりで「にやり」としていたことを、共有してもらうことで、やりがいが見つかり、自分の存在価値が感じられる
- ② 「にやり」を共有することで、職場内のコミュニケーションが広がった
- ③ 仕事にやる気が出た、モチベーションがあがった
- ④ 利用者様のことを大切に思える 介護の仕事を頑張ろうと感じた

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 利用者様にとっても、職員にとっても良い効果

新しい取り組みの大きなヒントになった

私たちのことをもっと  
知ってもらいたい



職員紹介ボードを作成

利用者様に「にやりほっと」を  
見てもらいたい



うれしかった言葉  
楽しかった言葉

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 評価・考察

### コミュニケーションがもつ機能

1. 情報伝達機能
2. 相互交流を深める機能
3. 相互理解を深める機能

コミュニケーションとは、より良い人間関係の基本であり、相手の思いを受け止め、こちらの思いを返すという「思いのキャッチボール」

このキャッチボールを繰り返していくなかで、利用者様とのより良い関係をつくり上げることが必要

『介護技術講習テキスト 日本介護福祉士養成施設協会編』より引用

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 課題

1. できることをたくさん見つけていくこと
2. 権利擁護の視点をもっていくこと
3. 職員同士のかかわりの「にやりほっと」も実施すること

すぐにケアにつなげなくても、いつか貴重な情報源になる

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 地域での生活 担い手としての活動

消防署の職員向け人権啓発研修で「高齢者理解講座」  
「高齢者疑似体験」を行った際、オリーブ職員と一緒に利用者様が講師に！

「高齢者の身体機能について」「配慮してほしいことについて」を利用者様が説明！

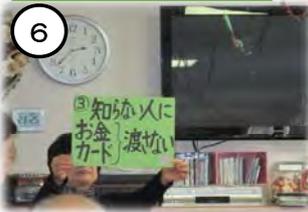
「耳が遠い人が多いので大きな声で、ゆっくり話をしてください」「つかむところが丸い手すりは使いやすいけど、楕円のような形の手すりは実は持ちにくいです」「避難訓練の時に使用しているオリーブの屋外階段、幅が狭く、急なのでいつも怖いと思っていました火災が起きたら準備体操もせず、いきなり階段での避難は多分無理です」などお話



消防署の職員さんから、「とてもわかりやすかった 今以上に高齢者にやさしくしたい」と感想をもらい、講師を担当した利用者様は、「消防署の皆さんがいることで私はとても安心して生活ができています」と言っていた

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 利用者様と職員と一緒に学ぶ講習会の実施

				
避難所体験	避難所のトイレについて	段ボールベット 組み立て	起震車 地震体験	煙体験
				
振り込め詐欺予防	手洗い講習	横浜の水	オリーブ自衛消防隊 「ファイト！オリーブ」	

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 小規模多機能型居宅介護事業所 オリーブ



## オリーブ 理念

### オリーブ笑顔 第一に！

利用者様も職員も笑顔で来て、笑顔ですごそう！を合言葉に「オリーブに来たら楽しくて元気になる」と言っていたけような事業所を目指します！

これからも「にやり」、「ほっと」、「たのしいな」、「うれしいな」・・・をみんなで共有していきます！

### 地域と歩む パートナーシップの輪

地域と取り組む介護予防の活動をします  
イキイキ元気なオリーブを目指します

8341  
やさしい  
オリーブ号



### 心のこもった介護 サービスの質の向上

未来の介護に向けて、尊厳を保持し、一人ひとりの自立の支援に取り組みます

#### 参考文献

- 『厚生労働省 平成29年度「高齢者虐待の防止、高齢者の要介護者に対する支援等に関する法律」に基づく対応状況等に関する調査結果』
- 『できることを取り戻す 魔法の介護』 ポプラ社
- 『朝日新聞 天声人語 2016.6.6』
- 『介護技術講習テキスト 日本介護福祉士養成施設協会編』

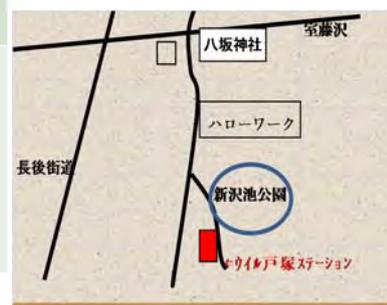
横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# ウイル戸塚ステーション



## 基本情報

法人名	シニアウイル株式会社
事業所所在地	戸塚区戸塚町3570番地の1 (JR戸塚駅徒歩20分)
開所日	H25.4.1
定員	登録:29名 通い:17名 宿泊:8名
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:内田早苗045-410-7471)
特徴	個々の状況により理学療法士が、事業所でリハビリを行い機能回復した事例がある一方で、看護小規模多機能の役割として看取り支援を行うこともあります。看取り時には、ご本人の希望を最大限尊重するため、可能な限りご本人から直接要望(最期に何をしたいなど)をヒアリングしたり、意思表示が難しい場合には本人だったらどうしたいと思うかということをご家族と一緒に考え、主治医とも連携しながら事業所、家族、医療機関など、チームで支援しています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

「家族みんなで支え合えた、在宅での看取り」  
「疾患があっても住み慣れた自宅で…」

- ・シニアウイル株式会社
- ・副社長 統括施設長 坂井奈美江
- ・ウイル戸塚ステーション 管理者 内田早苗

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## シニアウイル (株)

### 小規模多機能居宅介護施設

2007年 4月1日 開設 ウイル汲沢ステーション  
 2011年 4月1日 開設 ウイル戸塚ステーション  
 2013年 2月1日 開設 ウイル原宿ステーション  
 2013年10月1日 開設 ウイル長後ステーション

### 看護小規模多機能居宅介護施設

2013年 4月1日 登録変更 ウイル戸塚ステーション  
 2015年 2月1日 開設 ウイル六会ステーション

### 訪問看護ステーション

2014年12月1日 開設 ウイル戸塚訪問看護ステーション  
 2015年 3月1日 開設 ウイル六会訪問看護ステーション

### 認知症共同生活介護施設

2006年3月1日 開所 シニアウイルおどりば戸塚  
 2009年1月1日 開所 ウイル長後



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 小規模多機能を開所して…

「自宅で頑張りたい」でも問題が多すぎる…

そんな方々の力になれば…

通い→馴染みのスーパーへ寄って買い物→帰宅

1日複数回の訪問！

急に出張が！→泊まり

本人・家族の生活に合わせ通い時間を決める！⇒もちろん個別送迎

昼来て、夕食食べてから帰宅！

通いの中抜け？ … 通い→俳句の会→通い

退院直後ですぐに自宅では不安→泊り→少しずつ帰宅の練習！

おじいちゃんが転んじゃった！→すぐに訪問しますね！



寄せ植え (作品)

本人のこれまでの生活が途切れないため

馴染みのスーパー、病院、美容院、友人、敬老会や趣味の会…本人が行きた  
いところへ行かれるためのケアプランを作成！

医療対応が必要なケースも家族にも役割を担当して頂き、地域の病院  
や訪看や往診医…等々と連携し積極的に受け入れました。

近隣の方がボランティアに来て下さったり

お声かけくださったり…お花や野菜を持ってきて下さったり…

問題の多いケースにも対応することで職員のスキルアップにも繋がりました。

在宅を支えるためには訪問が大切！？ 抱え込まずチームで地域で…！と考えました…！

現在でも月平均600回程度の訪問で在宅を支えています！

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

## 事例



### 「家族みんなで支え合えた、在宅での看取り」

本人70代前半 尿管がん。同居の20代の孫と2人暮らし。Ky二女。長女亡き後から15年近く孫と2人での生活が続いていた。本人は自宅で闘病生活を過ごしていたが、今回痛み・発熱等の症状が顕著となり入院となった。状態が少し安定し、主治医からは「帰るならば今しかない」と話しがあつた。本人は二女や孫には迷惑をかけられないとの思いが非常に強く自ら緩和ケア病棟を予約「最後は緩和ケアに入院したいのよ」と言っていた。そんな本人の気持ちを察し、二女も孫もできる限り自宅で過ごさせてあげたいと強く望んでいた。

#### 退院直後はウイルで泊まり中心の支援を…

**泊まり…**退院直後は、本人も家族も不安があつたため、看護小規模多機能の泊まりを利用した。

**看護職：**主治医と連携のもと疼痛管理・全身状況の把握、酸素導入等を臨機応変に対応を行った。

**介護職：**食事介助・入浴介助、ご本人へまめにお声掛けを行いながら生活全般の介助

**音楽療法士：**ご本人の好きな音楽を演奏した。車いすでレクに参加したりリビングでお茶を飲むこともできた。

ウイルの泊まりで4日が過ぎた頃、今まで出来ていた移乗や座位保持や会話が出来なくなってきた。二女と孫と主治医と至急相談を行った。動かせるのは今しかない。本人は緩和ケア病棟へと望んでいたが、

「本当は自宅へ帰りたいたいと思っていると思う。」と家族の意見もあり本人へ「家に帰ろう」と提案すると、本人は穏やかな笑みを浮かべゆっくりとうなずいた。

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

### 自宅へ戻り訪問中心の支援へ…

#### 自宅で…

**介護・看護職：**2時間～3時間ごとに訪問し泊まっていた時と同じサポートを行った。家族からの不安に寄り添い、介護・医療的サポートを行った。

**二女：**仕事を休み寄り添った。二女の子（孫）も時間の都合を付け出来る限り本人宅へ来た。

**同居の孫：**仕事から帰り二女と交代し、本人のベッドの下に布団を敷いて寝た。

#### お看取り

孫は夜間1人で心配なことがあると小規模へ電話してきた。その都度、管理者や看護師が対応を行った。自宅へ戻り5日目の早朝に孫が見守る中息を引き取った。私たちが駆け付けると次女家族も到着していた。孫が「夜間、おばあちゃんと色々な話をしました。意識が混濁し始めた朝も僕を名前を呼んで『起きなさい学校に遅れるわよ』と言うんです。」と孫が涙ぐんだ。二女家族は孫を最後まで労いながら、主治医が到着するまで本人の思いで話しとなった。孫も二女家族も笑顔で話しは尽きなかった。本人が好きだったカーペンターの曲がずっとBGMで流れていた光景が今でも忘れられない。

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019



## 【事例又は独自の取組み等】

### 「医療依存度の高い要介護高齢者退院支援の現状」～医療機関の小規模多機能居宅介護との協働の期待と可能性

#### 状況

集合住宅に夫婦2人でサービスを利用しながら在宅生活を過ごしていた。妻は糖尿病のインスリン接種やバルーンカテーテル留置等医療的対応も多く、精神的不安からか日中夜間わず身体不調の訴えが強く、聞き入れてもらえるまで大声を出しを続ける。対応しきれない夫は救急車を呼んでしまい救急車の依頼が1日数回になることも珍しくなかった。住宅環境はゴミ等の片づけができない状況となっていた。

**朝 訪問** ・朝食準備 ・夫へ妻のインスリン接種の声掛け  
 (夫妻の支援) ・食後の薬をテーブルの上に出してくる  
 ・昨夜の食器の片づけ ・夫へ洗濯を行うよう声掛け促し  
 ・不安時はウイルへ連絡するようお声かけ

**昼 訪問** ・昼食準備  
 (夫の支援) ・朝食の食器の片づけ ・掃除機かけ  
 ・2日/w 通いサービス 入浴、他者との交流、妻と一緒に通い  
 夫の楽しみ  
 将棋、オセロ、レクレーション、ギター演奏をしたい楽しい

**日中通い**  
 (妻の支援) ・11時～通いサービスで入浴、他者との交流  
 ・夫の介護負担軽減

**夕 訪問** ・夕食準備 ・夫へ妻のインスリン接種の声掛け  
 ・食後の薬をテーブルの上に出してくる  
 ・昼食の食器の片づけ  
 ・夜でも夜中でも不安なことがあったらウイルへ連絡するようお声かけ

その後…1年近くは小規模を使いながら、夫婦2人での生活を過ごすことができた。

ある日、妻は状況の変化が見られ入院し、程なくお亡くなりになられた。

その後夫は、「住み慣れた自宅で暮らし続けたい」思いを実現し9年が経つが、自分の事は自分でできるようにもなり、実に要介護1のまま今も元気に過ごされている。

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# リカバリータイムズ駒岡



## 基本情報

法人名	(株)リカバリータイムズ
事業所所在地	鶴見区駒岡5-15-32 ラピスヒルズ102号 (綱島駅・バス[日吉駅東口行]→伊勢山神社下徒歩1分)
開所日	H25.8.1
定員	15名
サービス提供日・時間	月～土(12/30～1/3及び4・9月の第1営業日(平日)を除く) ①9:50～12:55 ②14:10～17:15
事業所の見学	利用者の見学は(随時)受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:上西・牧田 045-642-4820)
特徴	ご利用者の社会とのつながりを大切にしています。デイ利用以前に地域活動に参加していた場合はそのコミュニティへの復帰を目標に据えることも多く、復帰実績も多数あります。身体機能の回復により活動範囲を拡大していけそうなご利用者には、地域ケアプラザの生活支援コーディネーターと連携し、地域活動(体操教室や昼食会など)への参加を促しています。本年10月からは、総合事業の通所型サービスB「グッドタイムズ」の運営も開始し、継続した関わりにより支援を行っています。



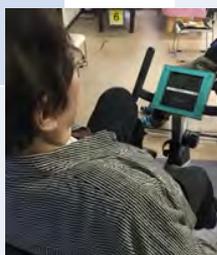
横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# リカバリータイムズ駒岡



運動負荷量をご自身で理解できた事で  
外出頻度・活動性が向上した事例  
要介護度:要支援2

性別	女性
年齢	87歳
現病歴	洞不全症候群→ペースメーカー留置後
HOPE	体調を自己管理して動けるようになりたい
NEEDS	①動くことへの恐怖心がなくなる ②疲労感をご自身で管理できるようになる
実施内容	①レッドコードを用いた身体運動 ②段昇降練習 ③自転車エクササイズ ④歩行練習



## 利用開始の経緯

ペースメーカー留置後、動作時の心負荷に対する恐怖心があり、外出頻度・体力低下あり

↓  
体力向上、外出機会の増加目的で利用開始となる

パルスオキシメーター、自転車付属の脈拍計を用い脈拍の管理、主観的運動強度表を利用し負荷量の確認をその場で適宜実施

3ヶ月後  
軽い運動であれば脈拍管理ができるようになり、動作時の恐怖心がないことを自覚する事が出来た!

6ヵ月後  
疲労感が管理でき、外出頻度が増え活動性も向上! →総合事業通所型サービスB「グッドタイムズ」へ参加することも可能となった。

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# リカバリータイムズモア



## 基本情報

法人名	(株)リカバリータイムズ
事業所所在地	鶴見区駒岡4-26-3 (綱島駅・バス[日吉駅東口行]→駒岡十字路徒歩1分)
開所日	H27.3.1
定員	18名
サービス提供日・時間	月～金(12/30～1/3及び4・9月の第1営業日(平日)を除く) 8:45～15:55
事業所の見学	見学をご希望の方は、事前にご予約を頂けると幸いです。 (担当: 小木曾・鈴木 045-633-4931)
特徴	脳卒中に特化したリハビリ型のデイサービスです。歩行が難しく外出の機会が減ってしまった方でも、運動する習慣を創り、自分で動けるという意識・自信を持てること、社会とつながれるようなきっかけ作りを理学療法士を中心としたチームでサポートしています。ご本人様の目標に応じて実際に屋外での活動を取り入れ、自分自身でも課題を認識し、より具体的な目標をもって意欲的に取り組めるよう、支援しています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# リカバリータイムズモア



## 脳梗塞入院からデイサービスでの運動を継続し、自分の生活を取り戻した事例 要介護度: 4

性別	男性
年齢	65歳
現病歴	脳梗塞後遺症
HOPE	ふらつき、筋力低下、注意力低下 一人でコンビニや飲食店へ行きたい
NEEDS	①定期的な運動習慣の獲得 ②バランス改善・安全な歩行の獲得 ③自宅周辺の散歩ができる
実施内容	①バランス練習 ②筋力トレーニング ③自転車での有酸素運動 ④自主トレーニング指導・確認



## 経過

### 利用開始

ふらつきが強く、一人での外出は困難。転倒を繰り返していた。また、高次脳機能障害により、注意力の低下がみられた。  
リハビリを継続できるデイサービスを希望、退院後すぐ週二回で利用開始。

### 1～2カ月後

転倒がほとんどなくなる。  
自宅周辺から散歩を開始、最寄りのコンビニ(約300m)まで行ける。

### 5カ月後

飲食店へ行けた！転倒なし！

### 半年後

週1回の利用へ。自主トレーニング・散歩を行う習慣ができている。  
さらに、地元で仕事がしたいと新たな目標ができ、生き生きと生活できている。

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# リハビリデイサービス プラチナ倶楽部



## 基本情報

法人名	(株)三文サービス
事業所所在地	港南区港南台6-2-1 (洋光台駅・バス[港南台行き]港南台第一中学校前徒歩2分)
開所日	H25.2.1
定員	18名
サービス提供日・時間	月～土(12/30～1/3を除く) ①9:00～12:10 ②13:00～16:10
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。 (担当:中神・本間・山中 045-830-5022)
特徴	リハビリの効果を最大限に発揮するため、継続して来ていただけるよう1対1の対話を重視し、カフェをイメージした居心地の良い空間づくりや、木製のぬくもりある器具、笑いのあるコグニサイズなどを取り入れ、利用者のペースに合わせた意欲・機能向上プログラムを実践しています。機能向上の過程を「見える化」し、効果を実感し、意欲的に取り組めるよう工夫しています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# リハビリデイサービス プラチナ倶楽部



【事例と取組みについて】 基本情報:要支援2 年齢:83歳 性別:男性

### ■ 事業所の利用を始めたきっかけと当時の状況

利用開始数か月前に脳梗塞を発症され入院、病院でのリハビリ後退院されるが、右側に軽度の麻痺が残った状態であった。

### ■ ご本人の目標と達成に向けた課題、課題解決に向けた取組みについて

★目標・・・「杖なしでも安心して歩行できるようになり、できればもう一度銀座を歩きたい！」

#### 《目標を達成するための課題》

- ・定期的に(休まず)運動できる環境づくり。
- ・歩行に必要な筋力の回復。
- ・現在の身体機能を把握して頂き、必要な運動の理解を得る。
- ・歩行訓練を通して、歩行に対する不安の軽減を図る。

#### 《課題解決に向けた取組み》

- 意欲低下の回復を図る目的で、他者との交流を中心とした支援を実施。
- 状態に合わせた負荷を設定し、マシンと歩行訓練の実施。
- 身体・運動機能測定の結果を説明し、リハビリの効果を実感して頂く。
- スタッフ見守りのもと、室内にて杖なし歩行を行い少しずつ不安を軽減して頂く。



### ★取組後の変化について

ご利用当初は「年なのでリハビリをしても無駄」といったネガティブ発言もあったが利用を重ね他者との交流を深めていく中で少しずつ前向きに取り組む変化が見られ、現在ではご自身から「もっと負荷を上げたい」といった発言もされるようになった。  
また、杖を使用したうえでご自宅の近所を、ご家族と一緒に散歩や買い物に行けるようになった。

● 目標である杖なし歩行については、まだ達成に至っていないが、外出歩行訓練なども行いながら、目標達成に向けて努力を継続されている。

「スタッフと一緒に銀プラを目標に頑張っています！！」



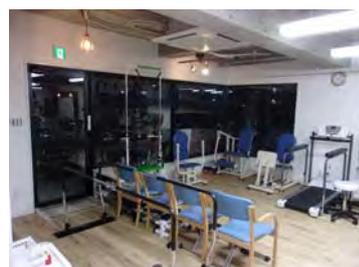
横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# コナトス金沢文庫 (前マッスルデイサービス金沢文庫)



## 基本情報

法人名	(株)オルタナ
事業所所在地	金沢区寺前1-5-30 FKビル金沢文庫101 (金沢文庫駅・徒歩6分)
開所日	H26.7.1 R1.10.1(移転、名称変更)
定員	13名
サービス提供日・時間	月～土(12/29～1/3及び祝日を除く) ①9:15～12:20 ②13:40～16:45
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。事前にお問い合わせください。 (担当:阿部 045-790-1677)
特徴	利用者の日常生活動作を意識したプログラムを理学療法士が作成し、個々に合った機能訓練を実践しています。いわゆるリハビリ特化型のデイサービスですが、運動機能の回復のみならず、ご利用者の生活全体を見通し、ご利用者の自尊心や意欲に寄り添うことで在宅生活の継続や社会参加につながるよう支援しています。押しつけではなく、ご本人の意欲を引き出せるよう対話を心がけています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# コナトス金沢文庫



## 【事例】



・ 介護度1⇒2、79歳、男性

【当事業所を利用し始めたきっかけ】

進行性神経難病の進行により徐々に体力的にも、  
動作的にも不安定さが増してきたため、  
専門的な視点も含めたアプローチが必要となった。

【目標、具体的アプローチ】

- 目標①進行性であることを踏まえ、  
その進行状況や予測に合わせた身体機能  
の強化による日常生活活動の基盤を整える。
- ②本人が福祉用具等の受け入れに対し  
消極的であるため、関係性を構築し  
必要に応じた福祉用具の受け入れを緩和する
- ③ご本人の希望や趣味、人間性を重視し即時的に  
自由度のある関わり方をする  
(近隣屋外への散策など)



【現在とこれから】

通所を開始し4年間経過

歩行での移動は徐々に困難となり、ご自宅での転倒も増えた。  
家族含め、少しずつ必要な環境を受け入れて下さったことで、  
在宅生活が継続できている。

進行性の難病であるため、身体機能の改善は困難。  
通所では身体機能面へのアプローチから社会参加という側面を  
重視し、介護度や病状の悪化に囚われず、ターミナル期に  
おいても人とのつながりを保ち、当事業所におけるムードメーカー  
としての役割を継続して頂くことで、ご本人の自由意思による  
選択を尊重できるよう通所介護としての関わりを模索し  
支援を継続している。

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# デイサービス絆home横浜青葉



## 基本情報

法人名	(株)ネクストバリュー
事業所所在地	青葉区青葉台2-21-3 (青葉台駅・徒歩10分)
開所日	H27.9.1
定員	10名
サービス提供日・時間	月～金(12/30～1/3を除く) 10:00～17:00
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:石川和秀045-989-3778/090-7828-4701)
特徴	認知症などで意欲が低下している方でもまずは「心と心のふれあい」から生活歴を探り、その方の役割を見つけていきます。役割が見つかるモチベーションが上がり、生きる活力を感じることができます。役割を果たし、「ありがとう」という言葉を聞いたとき、最高の笑顔と出会えます。地域交流を積極的に行うことで、ご利用者の社会参加の機会を広げ、人々との絆を深めることにも力を入れています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# デイサービス絆home横浜青葉



## 【独自の取組み事例①】

## 【結果】

### ◇基本情報:

要介護1 82歳、男性、H30脳血管性認知症と診断され、発語不良、意欲低下

### ◇事業所の利用を始めたきっかけ

奥さん要介護5、娘さん2人は就労しているため、ご本人ひとり自宅で過ごしているのが心配。ここところ意欲が低下して、このままだと何もできなくなってしまうのではと・・・、絆homeの庭での作業を期待している。

### ◇どんな目標を立て、具体的にどうアプローチしたか

現役時代は庭木の手入れが得意だったとご家族より情報あり

#### <目標>

絆homeの庭木の手入れ、絆home農園で畑仕事を行い、自分の役割を見つける

#### <アプローチ>

絆homeの庭にある一本松を見つめ  
「この松を伐採したい」とつぶやく・・・  
「私がやりましょう！」と即決された!



### R1.5 毎週水曜日

脚立に登り、ノコギリで松を5等分に伐採する(5回で伐採終了)。2回目以降、送迎車を降りると直ぐ、長靴に履き替え、軍手、ノコギリを自分で出し、松と対峙するようになる



この方の提案で松の切り株をベンチにすることに!(写真右上) その後、益々意欲が旺盛になり、絆home農園での畑作業や流しそうめんの竹作りなどが役割となり、自宅の庭木の手入れもできるようになる



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# デイサービス絆home横浜青葉



## 【独自の取組み事例②】

## 【結果】

### ◇基本情報:

要介護1 77歳、女性、アルツハイマー型認知症、訪問看護のみ

### ◇事業所の利用を始めたきっかけ

短期記憶低下。室内外で猫を5匹飼っており、外出の機会は猫の餌を飼う事だけに。また、餌を上げたことを直ぐに忘れてしまうため、何度も餌を与えてしまう。直近では見知らぬ買い取り業者が家に入り込み、和服など安価で買い取られた。

### ◇どんな目標を立て、具体的にどうアプローチしたか

学生時代から絵を描くのが好きで、美術館などにも鑑賞に出かけていたとご本人より情報あり

#### <目標>

絵を再び描くという目的で絆homeに通う  
猫以外の家事全般を役割に加える

#### <アプローチ>

絆home絵画サークルに通いませんか？  
絆homeに絵を描く仲間を探しているとお誘い



R1.6～ 毎週月・火・木・金

利用開始から1ヶ月間は、専用のスケッチブックを用意してデッサンを楽しんでもらう。他の利用者から「上手！上手！」と声をかけられ、日に日に絆homeの利用が積極的になる。



ご主人が営んでいたガソリンスタンドを手伝いながら子育てをしてきた方なので、キッカケができた後は、自らやることを探し、スタッフ以上？に役割を果たし、絆homeに貢献。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# デイサービス絆home横浜青葉



## 【独自の取組み事例③】

## 【結果】

### ◇基本情報:

要介護2 87歳、男性、H30脳出血、軽度の左麻痺、R1.10食欲不振入院

### ◇事業所の利用を始めたきっかけ

脳出血と食欲不振による入院後、ひとりで行っていた畑へ行かなくなった。意欲も低下、また、奥さんも要介護のため、通所サービスを利用して欲しいと長女さんの希望

### ◇どんな目標を立て、具体的にどうアプローチしたか

趣味が釣りや畑ということで、釣りと畑仕事ができる曜日を提案

#### <目標>

自分の畑が放置されているため、絆home農園での作業をキッカケに再開する  
趣味である釣りにも行けるようになる

#### <アプローチ>

スタッフ、利用者と3人で絆home釣友会を結成  
絆home農園で大根畑を作るとお誘い



R1.11～ たった3回の利用で自立し卒業へ

□利用1日目… 自宅から車手持参。土づくりから種まきを行う



□利用2日目3日目… AM 絆home農園での作業 PM 藤が丘公園で釣り



➢ 2日目の釣りで針にミミズを付ける事が出来ず悔しが。人に餌を付けてもらう釣りは初めてだ…そして3日目には自分で付けると挑戦し、できるようになる。絆home農園の作業もできることから、もう人に頼らなくても自分で畑に行けると仰って絆homeを卒業された

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 生活維持向上倶楽部「扉」



## 基本情報

法人名	(株)NGU
事業所所在地	泉区中田東3-6-42 (中田駅・徒歩5分)
開所日	H24.2.1
定員	12名
サービス提供日・時間	月～土(12/30～1/3を除く) 9:10～16:20
事業所の見学	利用者の見学は可(※突然の見学も問題ありませんが、できましたら事前連絡いただけたらと思います)但し無料体験・送迎はお断りさせていただきます。 他事業所からの見学・体験・研修も歓迎します。 事前にお問い合わせください。(担当:川辺(カワベ) 045-800-6231)
特徴	利用者の自主性を最大限に尊重しつつ、根拠ある介護技術での関りの統一と潜在している能力を適切に引き出せる活動で生活力や機能の維持向上につながり「生活の営み」の継続へとつながっています。地域で開催されているイベントに参加や積極的に外での活動を行うことで、地域の方や一般企業の方々と関り自分自身にもまだ「役割」があると再認識されています。地域の中での役割を持つことや生活内で自信を取り戻し、生活の再創造をされています。その結果、介護度の改善や介護保険からの卒業、なにより「生活の営み」につながっています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 生活維持向上倶楽部「扉」



## 【事例①】短期間での「卒業」

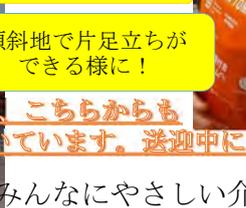
□要介護2 □79歳 □女性 □認知症疑い  
□骨折(下肢機能低下) □独居(アパート2階)  
▽Faより「1人暮らしを続けてられるようにしたい」と直接連絡あり  
▽ご本人も「1人暮らしを続けたい」と言われている  
《設定目標》  
一年以内に介護保険サービスを利用しなくても生活を営んでいただく。  
《アプローチ》  
まずは「記憶」と「認識」のズレ幅の調整。料理・掃除・洗濯・買い物といったQOLの向上と、室内外を移動できることやアパートの階段の昇降・入浴動作につながるADL(生活に必要な筋力)の維持向上を生活動作内での活動内に落とし込む。

・最初は生活動作での記憶と認識にズレがあり調理等の進行に戸惑いがあったため、戸惑い部分にのみ介入で生活力が戻ってこられる。

・生活力が戻り始めたタイミングで「立つ・歩く」を中心にその都度姿勢などにパートナー全員が介護技術での根拠を伝達。歩行、足上げに安定感がでる。階段昇降に問題なくなる。

☆結果、生活に自信が持てる様になり、また、ご自分でやりたい事も出てきた為、半年後「介護保険サービス」から「卒業」となる。もちろん、卒業されてからも関係は継続中!

最終日は、認知症啓発活動に参加し地域を12Km歩き「卒業」となる



卒業して終わりではなく、今でも何かあれば電話をいただいたり、こちらからも連絡をさせていただいています。送迎中にもお会いすると元気に声をかけてくれます!

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 生活維持向上倶楽部「扉」



## 【事例②】潜在力が発揮されイキイキとした生活に！

□要介護2 □67歳 □男性 □独居 □脳梗塞

□知的障がい（小学高学年程度） □血管性認知症

▽CM生活での活動性があがり、社会的ルールを身に着ける事と生活での成功体験を感じて欲しい。

▽本人今の家に住んでいきたい。

### 《目標設定》

ご自宅での生活を継続し、沢山の方と関わることで協調性や社会的ルールを身に着けていただき、ご自宅での生活の営みを継続できる。

### 《アプローチ》

訪問介護員と連携して「共通の関り」から、自分で「できる」を生活内で沢山感じていただけるよう潜在能力を発揮していただく。また、保険外での関わりも行う。

関わり開始から徐々に生活への変化が出始める。一年後より、今まで訪問介護員に依存傾向があったが、当法人の訪問介護に変わり明らかに生活内での「じりつ」が著明となる。ご自宅でも食べ物を作ってみたりとイキイキとされている。レシート管理なども事業所内で行い一ヶ月いくらか使ったかなどをご自分で計算することで、買い物時しっかりと値段確認が行われるようになる。外出時の服装にも変化がみられ、その場に合った服装を選び着用されるようになった。一人暮らしに寂しさを感じられているが、ご自分の対処法も見いだせている。



基本的には、日常生活動作の維持プログラムと生活維持のプログラムを実施  
※食事準備・清掃・買い物

ご自宅の生活にも！

他メンバーさんとも一緒に一泊旅行やイベントに参加などで、お酒を飲みながら色々な体験をしていただいています



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 生活維持向上倶楽部「扉」



## 【事例③】人の役に立ちたい！

□要介護2 □85歳 □男性

□アルツハイマー型認知症 □正常圧水頭症疑い

▽通所などは行きたくないと言っている為何とか外に出られるキッカケとご自宅生活の継続をして欲しい

▽できる事は協力したい

### 《目標設定》

役割のある生活がある事で生活に自信を持っていただく

### 《アプローチ》

本人さんしかできないことやパートナーや地域の為に働けるキッカケを提供し、まだまだ人の役に慣れることを実感していただく

英語等・・・  
5ヶ国語を話せます！

この日は  
英語通訳

台湾政府・大学教授の方が視察に来られた際、パートナーは英語が話せない為通訳をしていただきました

初利用時にパートナーの力になっていただいたところ「明日からも来ます」と仰っていただけ継続利用となる。3ヵ月くらいから生活動作の向上が見られはじめ、半年でご家族より「久しぶりに庭仕事や、朝、雨戸をあけている父の姿があり、本来の父を見ることができました」等のご自宅での生活の報告の手紙をいただきました。介護従事者の認知症の方への対応の評価などをしていただくことや、法人の名刺を持っていただき外での活動に参加していただく事で自信が再度持てた様子で、ご自宅でも活動量が増え潜在していた力が表に出ています。

外での活動は大切です。ご自宅につながります。



保険外で一泊旅行に行った際女優の北原佐和子さんとお友達になり「戦争の体験談」やパートナーに「英会教室」の開催なども行っています

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# リハビリタイムズ獅子ヶ谷



## 基本情報

法人名	(株)リハビリタイムズ
事業所所在地	鶴見区獅子ヶ谷2-37-23 (綱島駅・バス[鶴見駅西口行]→神明社前下車徒歩3分)
開所日	H31.4.1
定員	12名
サービス提供日・時間	月～金(12/30～1/3及び4・9月の第1営業日は休業) ①9:15～12:20 ②13:30～16:35
事業所の見学	利用者の見学は事前にご予約を頂けると幸いです。 担当:石井・渡邊 TEL:045-834-9125
特徴	どんな状態になっても「自分らしく生きていく」をチームでサポートし、いかにご本人の潜在的ニーズを顕在的にしていくかにこだわってサービス提供しています。理学療法士による困りごとなどを丁寧に聴くことを意識したアセスメントのもと、利用者一人ひとりの目標を明確にした上で、個別の運動プログラムを作成することで、意欲的に参加でき、状態の改善につながっています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# リハビリタイムズ獅子ヶ谷



## 好きだった選挙投票に 再び行けるようになった事例 要介護度:3

性別	女性
年齢	91歳
現病歴	脳梗塞後遺症 右片麻痺、車椅子移動
HOPE	できる限り身の回りのことは自分でしたい、選挙に行きたい
NEEDS	①動くことへの恐怖心がなくなる ②更衣、整容動作が自力で行える ③玄関の階段昇降が可能になる ④車への乗り移りが可能になる
実施内容	①レッドコードを用いた身体運動 ②立ち上がり練習 ③段差昇降練習 ④歩行練習



## 経過

### 利用開始の経緯

- ・動くことへの恐怖心が強く、自宅の外へ出ることが困難。(玄関外に階段あり)
- ↓
- ・弊社訪問看護から引き継ぎ、まずは自宅外へ出るきっかけ作りとして開始。

### 1ヵ月後

- ・通所することが楽しくなり、外へ出ることへの恐怖心に変化がみられる。
- ・玄関の階段は全介助⇒軽度介助にて昇降可能になる。

### 3ヵ月後

- ・玄関の階段は軽度介助⇒見守りにて昇降可能になる。
- ・更衣、整容動作が一部介助⇒ほぼ自立となる。
- ◎家族とともに再び選挙に行くことができた！

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# デイサービス プレゼンス



## 基本情報

法人名	(株)PRESENCE
事業所所在地	港南区港南台3-22-11 (港南台駅 徒歩8分)
開所日	H26.8.1
定員	10名
サービス提供日・時間	月～土(12/31～1/3を除く) 9:20～16:30
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:池山 045-374-3292)
特徴	自宅での日常生活動作を意識し、日常生活に制限が出ていることを解消するための個別の機能訓練を行うことでデイサービスを卒業するなどの改善事例があります。ご利用者とのコミュニケーションを意識的に行い、会話の中から根拠に基づいてご本人の認知機能の状態を把握することで、日々ご利用者の状態を把握し、サービス提供に活かしています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# デイサービス プレゼンス



## 【事例又は独自の取組み等】

- ・要介護3 78歳 女性
- ・疾患 パーキンソン病
- ・利用期間 2016年4月～2017年8月
- ・ボランティア期間 2017年8月～現在



### 利用までの経緯

パーキンソン病を発症されたことで身体も思うように動かず、精神的に落ち込まれてしまう。家族のサポートを受けながら在宅生活を送っている。デイサービスを利用し状態の安定を図りたいとサービスを受けることとなる。

### 目標

本人に身体状況を理解をしていただき、現在の身体状況に合わせた日常生活を送り精神状態の安定を図り様々な活動に参加する。

### 具体的アプローチ

- ・家事など以前自宅で行っていた動作を行う。
- ・身体状況の評価を3カ月ごとに行い自身の身体状況を理解していただく。
- ・地域交流の機会を設け園児などとの地域住民との交流の場の提供する。

## 結果

パーキンソン病の症状も落ち着き、デイサービスでの役割も増え、表情も良くなり積極的に様々な活動に参加されるようになった。自宅でも家族のサポートなく生活が出来るようになり、地域の活動にも参加されるようになり生活状況も落ち着いた。

要介護3から要支援2に介護区分が変更となる。現在は利用者としてではなく、週1回ボランティアとして当事業所に来ていただき食事の準備や利用者のサポートなど様々な活動に参加されている。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# デイサービス れんじゅ



## 基本情報

法人名	(株)seed
事業所所在地	緑区新治町897-26 (十日市場駅・徒歩12分)
開所日	H22.5.1
定員	10名
サービス提供日・時間	月～金(12/30～1/3除く) 9:30～16:30
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:岩澤 045-532-6463)
特徴	多職種連携でご利用者様に関わることで認知症・自宅に引きこもりの方などに外出の機会を作り、デイでの活動・役割が意欲向上に繋がっています。また友人もでき通所の楽しみとなっています。ご自宅でも穏やかに生活が送れるようになり、表情も明るくなるなどの改善事例があります。家庭的な事業所内は笑顔であふれ、明るい笑い声で満たされています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# デイサービス れんじゅ



## 【事例又は独自の取組み等】

### 要介護1・女性・77歳

### 事業所の利用を始めたきっかけ

生活環境の変化に慣れるのに時間がかかり  
部屋へ引きこもり食事もうちで摂るように  
また物盗られ妄想・不安の訴えあり  
ご家族様より外出の機会を持ち支援の中で楽しみを  
見つけ穏やかに過ごして欲しいと利用開始となる。

### 目標・アプローチ

- 不安を少しずつ取り除けるよう傾聴、ケアマネと連携を取りご家族様負担軽減のため いつでも通所できるよう追加利用ありと計画書に記載。
- 生活機能訓練を充実させ役割を作り意欲向上を目標とする。
- 食事・水分摂取量の把握、体重増加を目標とする。

### ・結果

- 傾聴により物盗られ妄想の訴え・不安の訴えは軽減されている。
- 通所での家事動作等で意欲向上が観られ自発的に取組まれている。
- 以前より食欲もあり体重は通所7カ月で3kg増加。
- 通所は週1回から週5回になり、泣き顔よりも笑顔が多く見られる。

ご本人様より

「みんなに明るくなったと言われる。ここに来ていると1日が早く楽しい。」  
と 笑顔で過ごされています。

### (活動内容)

- 昼食・おやつ準備。
- 洗濯物たたみ・洗濯物干し。
- 食器拭き・食器洗い。
- 拭き掃除・草むしり 等。



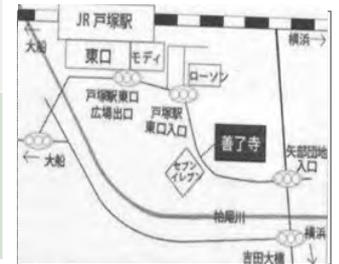
横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 宗教法人 善了寺 還る家ともに



## 基本情報

法人名	宗教法人 善了寺
事業所所在地	戸塚区矢部町125 (戸塚駅 徒歩5分)
開所日	H28.4.1
定員	13名
サービス提供日・時間	月～土(12/30～1/3を除く) 9:30～16:35
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:ミネ 045-410-7307)
特徴	お寺に併設されたデイサービスです。認知症があり決まったプログラムを行うことが難しい方でも生活の延長線上上でできることを行ってもらうことで、役割を持ち、生き生きと生活を送って頂けるよう支援しています。地域との交流にも積極的に取り組み、デイに多くの人が集い、交流する場となる中で、新たな人間関係が生み出せるように心がけています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# 宗教法人 善了寺 還る家ともに



## 【事例又は独自の取組み等】

デイが開所してから約14年、直接の利用の有無にかかわらず（介護保険制度の対象では無くても）、様々な方々がここを居場所とし、支援し・支援される事例がありました。制度やシステムの狭間でそこからこぼれ落ちてしまうようなケースの支援（包括的ケア・ソーシャルインクルージョン）事例をあげていきたいと思っております。

### ・ 事例の紹介

#### 安否確認も兼ねたボランティア

ボランティアAさん（80代）は、遠方より地縁のない戸塚に引っ越して来られる。戸塚での関係づくりのきっかけにボランティア活動を希望し大規模デイに申し込みも、年齢制限で断られる。ボランティアセンターからの紹介で、当デイで7年前より活動される。単身独居にて、当デイでのボランティア活動はAさんの安否確認も兼ねており、連絡なしでデイのボランティアを休んだ時は家族に連絡することになっている。また、ボランティア活動を通じてお仲間も増え、デイで毎年参加している商店会の日帰り旅行（介護保険外のイベント）にもほぼ毎年参加されている。

#### リタイアした盲導犬の居場所として

盲導犬を退職したBちゃん。リタイアすると、今まで活動していた交通機関や公共施設等への出入りも制約されるようになる。人が好きで、人が集う場所にいることを楽しみにしていたBちゃんの変化によるリロケーションダメージを考慮した飼主からの提案で、週1回デイに通う事になる。デイではセラピー犬として活躍していた。

#### ボランティアからスタッフへ「生きづらさ」を抱いていたCさん

Cさん（40代）は1～2年ごとに職を転々としたのちブランクがあり、社会復帰のきっかけに当デイのボランティア活動を始める。純真無垢で裏表のないCさんは皆さまから大人気。事業所で求人を出すことになり、声をかけ非常勤職員として勤務することになる。職員として勤務してみると、あいまいなコミュニケーションが苦手と、一つの言葉尻にとらわれてしまう事や、想像して働くことが苦手など、問題が顕在化してくるようになる。話し合いの場を持つ中で、お母さんはCさんに「ふつうだけど普通じゃない」という思いをもっておられ、受診を進められていた事や、本人も自分を理解してもらえない事への「生きづらさ」を感じている事などがわかってくる。話し合いの中で本人も前向きに受診する気持ちになり受診し、発達障害との診断がでる。その後、横浜市障害者就業・生活支援センターとも連携し、職場内環境を整える。

#### 暴力から逃れ駆け込み寺・セーフティネットとして

ボランティアセンターからの紹介で活動していたDさん。ご利用の皆さんとトランプなどのレクリエーションを楽しんだり、食器洗いなどの家事的な作業を買って出してくれていたが、やがて「お金を貸して欲しい」など、不穏な発言が目立ち始める。その為、話し合いの機会を持つと、実は共同住宅で暴力を振るわれていて、それから逃れるためのボランティア活動だった事がわかってくる。本人、ボランティアセンター及び社会福祉協議会の職員と話し合いの場を持ち、事態の改善に努める。

#### グリーンケアの場として

お寺に集う方の多くは、ご家族を亡くされた方でありデイのボランティア活動を通じて利用者や他ボランティアと関わり、繋がっていくことで、グリーンケアの場となっている。

事例) Eさん（70代）は平成4年にご主人が往生され善了寺のお檀家となる。その後、平成17年にデイが立ち上がり、食事作りなどデイのボランティア活動を始めるもH22年娘さんが白血病を再発し往生される。ボランティア活動はお休みし、しばらく落ち込み家にこもる生活をしてきたが、坊主（住職の妻）から食事作りだけでなく傾聴等も含めたボランティアの声をかけられ落ち込んでいた自分でもお手伝いできることがあるならと、ボランティア活動を再開する。デイはお寺の中にあるので（お墓の近くにあるので）、気持ちの安らぎにもなり、お年寄りのご苦労された話を伺うなどしている中で「苦しかったり悲しかったりするのは、自分だけじゃない」と、前向きな気持ちになれたとの事。ご本人にとってボランティアとは何か問うと「生きがいにしているのよ」と笑顔で話されていた。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# Harmony House



## 基本情報

法人名	医療法人 匠光会
事業所所在地	都筑区茅ヶ崎東2-12-24 (横浜市営地下鉄 センター南下車 徒歩10分)
開所日	H29.4.1
定員	登録:29名 通い:15名 宿泊:8名
事業所の見学	利用者の見学は随時(※随時や曜日等)受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:高瀬 045-530-5070)
特徴	看護師が常勤で配置されているため、医療ニーズが高い方でも受け入れが可能です。開所してまだ3年めですが、すでに20名を超える方の看取りを行っています。1階がデイサービス、2階がショートステイと階を分けることで、状態の悪い方も落ち着いて過ごせ、ご家族も一緒に泊まれる設備を備えています。設立主体の医療法人では、訪問看護や診療も行っているため、情報を共有し介護と医療を一体化したチームで取り組んでいます。事業所内は笑いが絶えず、季節ごとの様々なイベントを開催し、地域との交流も図りながら、日々利用者さんとご家族の毎日を支えています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# Harmony House



## 【Harmony Houseでの取り組み】

- ① 本人の生活歴を詳しくレビュー
- ② ケアについて短時間カンファレンスを随時実施  
(多職種で「10分あればカンファレンス」)  
➡カンファレンスシートに記入 情報の共有
- ③ いつもの様子の違いや変化を気づきの目をもつ  
(顔色・言葉・行動などより)
- ④ 訪問診療・訪問看護など多職種との情報共有



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# Harmony House



## 【事例1】

A氏 男性 80歳 要介護5

疾患：アルツハイマー型認知症、慢性腎不全、脳梗塞  
気管支喘息、前立腺癌

状態の変化：疼痛の悪化 ベッドからの起居動作  
立位が困難、認知機能の低下

BPSDの変化：介護拒否(入浴拒否等)の増加



困難となったこと：決まった時刻、集団での送迎  
限定された時間の入浴 保清の維持



個別対応が可能な小規模多機能居宅介護への移行

## 【目標】

気持ちが安定出来るような環境作りをし、穏やかな時に活動をうながすように声掛けを行い、ご本人らしい生活を送ることができる。

- 1, 興奮や怒りの引き金となる事象を把握し、環境調整を行い穏やかに過ごすことができる。
- 2, A氏の行動パターン、タイミングに合わせて、苦痛や不快に感じないケアすることができる。
- 3, 身体的な状態変化を把握し、症状コントロールすることができる。
- 4, 家族の思いを理解し、限りなく自宅で生活できるよう支援することができる。

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# Harmony House



## 【A氏への具体的な取り組み】

- ① 集団が苦手→個別送迎を行った。
- ② 送迎時にはラジオをける。→1人でラジオを聴いて仕事をしていた。
- ③ 気持ちの落ち着いているタイミングに合わせて、排泄等のケアを促す。
- ④ 痛みを感じると怒る→本人のペースで動く痛みを感じにくい→介助ではなく、A氏の動くタイミングをまつようにした。
- ⑤ 正面からゆっくり静かに声をかけるようにした。
- ⑥ 興奮時はスタッフが1対1で見守り、静かに過ごせるように対応した。
- ⑦ 発語に対しては、必ず返事をするようにした。
- ⑧ 他の利用者との間にスタッフが介入し、良好な関係が築けるように留意した。
- ⑨ 車椅子のフットレストを外し、本人が足こぎで自由に移動ができるようにした。  
(抑制せず安全を配慮した環境をつくったうえで)
- ⑩ 帰宅前に着替えをし、帰宅後に家族がイブニングケアをしなくてよいようにした。
- ⑪ 妻の話を傾聴し、思いを共有し精神的支援をした。
- ⑫ 自宅での妻の介護負担が軽減するようなケア方法を一緒に考えた。

## 【A氏の変化】

- ① 暴力、大声が減ったためデイルームで過ごせる時間が増えた。
- ② BPSD症状が落ち着き、通いの回数が増え、泊まりも随時利用出来るおり家族の介護負担が減った。
- ③ 日中は排尿・排便を単語で知らせてくれるようになり、本人も不快な思いをせずに排泄ができるようになった。
- ④ 短い会話をするようになり、表情もおだやかになった。
- ⑤ 少しずつ他利用者とレクリエーションに参加できるようになった。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# Harmony House



## 【事例2】

B氏 女性 94歳 要介護4  
疾患 アルツハイマー型認知症  
状態の変化: 認知機能低下 昼夜問わず頻尿  
尿失禁 排便コントロール困難  
BPSDの変化: 介護拒否(入浴拒否等)「嫌です」と強く拒否  
大きな声で怒鳴る 他利用者とのトラブル



困難となったこと: 限定された時間の入浴対応  
保清の維持が困難  
デイサービスに通えない(3カ所サービス利用)



個別対応が可能な小規模多機能居宅介護への移行

## 【目標】

ご本人のペースに合わせた声掛けをし、不穏な時は、納得するまでその時々状況説明をしっかりと行う。

- 1, 不穏・不安になる際の事象を観察し環境調整を行い、納得するまで寄り添い本人らしく過ごすことができる。
- 2, B氏のペースに合わせて、苦痛や不快に感じないケアをすることができる。
- 3, 排便状態を把握し、薬剤調整しながら症状コントロールすることができる。
- 4, 家族とB氏の状態について共有することができる。

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# Harmony House



## 【B氏への具体的な取り組み】

- ① 童謡などの音楽が好きで落ち着くことが分かり、リラックスできるよう音楽を流す。
- ② 好きな飲み物などを提供し、気分転換を図る。
- ③ 目線の高さや声のトーン、話しのスピードを合わせて声をかける。
- ④ 不安になった場合は、状況の説明と落ち着くように環境調整をする。
- ⑤ こちらから誘導する声かけではなく、立ち上がったタイミングなどを利用しさりげなくケアに誘導する。
- ⑥ 帰宅願望がある時は、一緒に部屋や荷物を確認したり、施設内を歩行し場面転換をする。
- ⑦ 「参加しません」と拒否があっても、自然に参加しているような状況を作る。
- ⑧ 入浴・更衣・トイレ内の動作など出来ることは自分で行えるように支援する。



## 【B氏の変化】

- ① やりません」「いやです」「結構です」「触らないで」とほとんどのことに対して拒否する状態であったが、拒否がなくなった。
- ② 定期的に入浴が出来、清潔が保てるようになった。
- ③ 穏やかに1日を過ごすことが出来るようになった。
- ④ レクリエーションと一緒に参加できるようになった。「私もやりたいです」との言葉が聞かれるようになった。
- ⑤ 排便コントロールができ、汚染することが減った。
- ⑥ 帰宅願望は、時折見られるも不穏になることなく過ごせるようになった。

横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# ウイル汲沢ステーション



## 基本情報

法人名	シニアウイル株式会社
事業所所在地	戸塚区汲沢八丁目31番18-21号 (横浜市営地下鉄(ブルーライン)踊場駅下車徒歩8分)
開所日	H19.4.1
定員	登録:29名 通い:15名 宿泊:5名
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:鈴木 045-261-0868)
特徴	「住み慣れた自宅で最後まで暮らしたい」というご本人の希望を最大限叶えるため、家族と協力しながら支援を行っています。訪問回数は月に600～800回程度あり、ご利用者の状況に応じて1日に複数回の訪問も行います。その都度スタッフがアセスメントを行い、必要に応じてすぐにケアプランに反映させています。ご本人の馴染みの病院、スーパー、美容院、自治会等に行くなど、これまでの生活を継続できるようサポートを行っています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# ウイル汲沢ステーション



## 【事例又は独自の取組み等】

- ・要介護3 男性
- ・長期の入院により下肢筋力低下が顕著となりベッド上で過ごすことが多くなってしまった夫を、腰痛が酷く杖歩行で要介護1の妻が1人で支えていた。退院をきっかけに臨機応変に生活全般に於いてサポートが必要と判断され小規模多機能居宅介護施設利用開始となる。
- ・目標  
妻の負担軽減に努め、自宅での生活を継続する。
- ・開始当時は妻の疲労感が強く、暫く泊まりを導入することとし妻の負担を配慮した。
- ・泊まりを利用している期間は、生活リハビリを中心に朝起きる→リビングで体操やレクリエーションを行う等の離床支援を中心に行った。

- ・その後、妻の回復を目安に通いと訪問と時々泊まりの支援内容に変更した。この時に訪問リハを導入し、リハビリを開始、PTより介護職が担えるリハビリの計画を立案頂き、隔週でPTのリハビリと評価その他の日はPTが立案した計画通りに介護職が個別の歩行練習や運動を担った。
- ・結果、1年を目途に室内杖歩行が可能となった。
- ・現在利用開始から5年が経つが要介護3→要介護2となり、自分の事は自分でできるまでに回復できている。
- ・住み慣れた自宅で夫妻2人の生活の継続が今でも可能となり妻は日中は趣味の会に参加し楽しむことも出来ている。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# ウイル原宿ステーション



## 基本情報

法人名	シニアウイル株式会社
事業所所在地	戸塚区原宿4-44-28 (戸塚駅よりバス(藤沢行→聖母の園前・大船行き→医療センター前))
開所日	H25.2.1
定員	登録:29名 通い:17名 宿泊:9名
事業所の見学	利用者の見学は随時受付。他事業所からの見学も歓迎します。事前にお問い合わせください。(担当:佐藤 045-392-6661)
特徴	ご利用者一人一人のニーズに沿った丁寧なサービスの提供を心掛けており、ご利用者の中に麻雀がお好きな方には、地域で行われる麻雀教室への送迎を行い、それまで社会的ではなかったご利用者が笑顔を見せるようになりました。また、在宅支援には訪問が不可欠と考えており、独居等の方は必要に応じ1日3回の訪問をプランに位置付け、一月に約600回程度の訪問実績となっている。住み慣れた地域で生活の継続が可能となるための支援を行っています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019

# ウイル原宿ステーション



## 【事例又は独自の取組み等】

- ・要介護1 男性
- ・本人の趣味でもある調理の食材がなかなか調達できず、意欲低下に繋がってしまったケース。
- ・もともと、食事作り、食材にもこだわりがあり、食材を求めて買い出しに歩き自分で調理をし食すことが楽しみとなっていた。
- ・最近、下肢筋力の低下もみられ好みの食材を買いに出歩けなくなったことで、食事を作る楽しみが奪われ、意欲の低下が見られてしまっていた。
- ・目標  
好きな調理を開始し楽しみをもち続ける

小規模多機能を利用するようになり、好きな食事作りを楽しんでいる。小規模の支援は毎日1回の定期訪問で安否確認のお声掛けと、臨機応変な訪問とを合わせた。自分の事は自分で行って頂き、掃除や大きなシーツ等の洗濯は小規模が担った。本人のペースで自分の事は自分で行う。本人が行きたいところへ行かれるためのサポートを必要に応じ行った。主には買い物、病院、歯科、郵便局、銀行、床屋の送迎支援を行った。

通いサービスでは週2回入浴と体操と他者との交流を目的とした。短時間の通いからスタートし無理なく外出できる体制を構築した。4か月経過した現在、買いたい食材をあちらこちらのスーパーへ買い出しに職員と一緒に出かけたり、好きな料理を楽しんだり、通いで他者と交流が出来たり等、楽しみを持った生活の継続ができています。



横浜発「みんなにやさしい介護のプロを目指す」プロジェクト2019